

特別活動WG 審議に当たり取り扱った事例

目次

合意形成に関する事例	pp. 3-12.
学級経営に関する事例	pp.13-20.
特別支援に関する事例	pp.21-27.
学校行事・クラブ活動に関する事例	pp.28-42.
デジタル基盤の活用に関する事例	pp.43-67.
子供の地域社会等への参画に関する事例	pp.68-88.

合意形成に関する事例

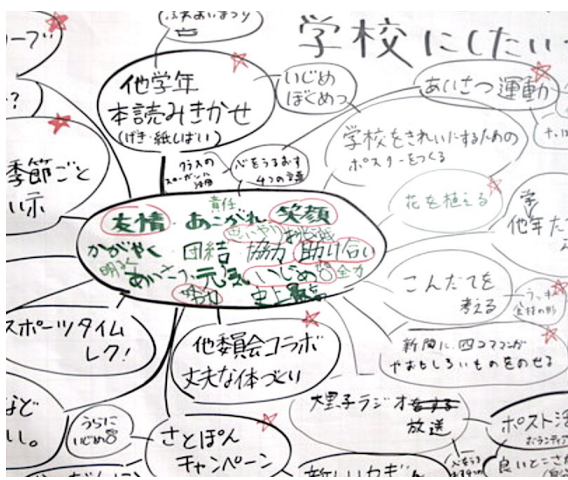
子供による主体的な学校生活の充実事例

さいたま市立浦和大里小学校

「学校美化」と「自由時間拡大」の両立

児童会

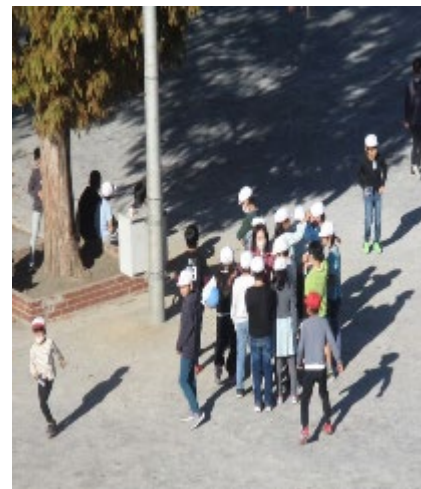
- 代表委員会では、学校生活をよりよくするために話し合い、特に学校運営に関わる内容については、校長や担当教師と相談しながら取組を進めている。
- 例えば、「もっと友達とたくさん遊んだり、自分の好きなことに取り組んだりする時間がほしい」という思いから、「昼の清掃をなくし、昼休みを長くしてほしい」と校長へ相談。しかし、清掃が行われなくなった場合の課題も考えられるため、代表委員会は美化委員会と協力し、解決策を検討。代表委員と美化委員が中心となり、清掃の大切さ等を全校児童に伝え、環境美化に取り組んだ。
- 結果、全校児童の環境美化に対する意識が高まり、取組も改善。そこで、再度校長と代表委員会が話し合い、週1回のロング昼休みを設けることを決定。現在、その時間を活用して学級での集会活動や読書、係活動などに取り組んでいる。



代表委員が話し合いながら、取り組みたいことを図に表わす



日頃から清掃を丁寧に取り組む



ロング昼休みの実現
(学級で集会活動、学校図書館で読書)

子供による主体的な学校生活の充実事例

玉野市立荘内中学校

**校則の譲渡と「ルール変更」が
目的化しない学校づくり**

生徒会

- 令和3年、生徒から校則改定が具申され、全校生徒での協議を開始。翌年、生徒会長から校則譲渡の具申書が校長あてに提出され、同年後期に**校則譲渡式により校則を廃止、校則は「生徒会会員心得」**に。生徒は自分たちの行動指針を生徒会として作成している。
- 生徒会活動では、**生徒の自治的な組織の確立と権限の明確化**を図り、各学級の意見は毎月行われる生徒会定例会で代議員から執行部に届けられ、執行部は、全校からの意見を踏まえて各種委員会の取組を検討。
- また、**学校づくりの責任を果たすため、学校生活上のルールを議論**する中心的な場として、「ルールメイキングサミット」を毎年実施。**生徒会のスローガンである「愛され 応援される人へ」を常に考えながら、「心得」に入れるべきか、配慮で解決可能か等を議論**している。



学級における話し合いの様子



生徒会定例会の様子



ルールメイキングサミットの様子

子供による主体的な学校生活の充実事例

板橋区立高島第一小学校

「みんなでつくる運動会」の実施

学校行事

- 代表委員会では、「運動会を通して、全校のみんなの心を1つにしたい」という願いから、全校で取り組める工夫について担当教師と代表委員会の児童が、かけられる時間や材料、予算等を確認しつつ検討。
- 各学年に協力してほしい内容を整理し、自分たちで全校へ依頼。例えば、1年生は輪飾り、2年生はお花紙で花づくりなどに取り組み、全校児童が運動会への意気込みを短冊に書くなど、全員が参加できる取組を実施。
- これまでの高学年が中心となった運営協力ではなく、全校児童が参画することで、低学年においても当事者意識が芽生え、運動会への意欲の高まりにつながった。



代表委員会における話し合い



全校児童への周知



全校児童による装飾

子供による主体的な学校生活の充実事例

行田市立下忍小学校

子供による修学旅行「保護者説明会」の実施

学校行事

- 学級活動（3）^(※)の授業として、自分自身のよさを見つめ直すとともに、互いのよさや頑張っていることを伝え合い、自分の強みなどを再確認し、自己肯定感を高めた。
- これからの生活でどのように自分のよさを生かしていくかの意思決定の過程で、まもなく実施する修学旅行でも自分のよさを生かせる旨助言したところ、「保護者への説明会も自分のよさを生かして、自分たちで説明したい」と子供たちから提案。校長とも協議し、説明会で子供たちの出番を設定した。
- 責任をもって準備を進め、当日は自分たちで決めた約束や調べたこと等について、丁寧に説明したり、保護者からの質問に答えたりする姿が見られた。

(※) 一人一人のキャリア形成と自己実現



学級活動（3）において
自分や友達のよさを生かす
行動目標を意思決定



よさを生かして役割を分担し、
責任をもって準備



話し合って決めた約束や
調べたことを保護者へ説明

子供の意見表明や社会参画に関する取組事例

大田区立北糀谷小学校

アンケートボックスを通じた子供の声の具現化

児童会

- 代表委員会の発案で校内に学校生活をより楽しくするためのアンケートボックスを設置し、どうすれば学校生活を楽しくできるのか、全校児童からアイデアを随時募集。
- 集められたアンケート用紙は、運営委員会の子供たちが関係する委員会に振り分け、それぞれの委員会で実現可能性について議論。
- これまで、全校児童が校庭で鬼ごっこをする、校内放送で占いや先生のインタビューを流す、交通安全のキャラクターをつくる、コロナ禍の運動会での発声を伴わない応援グッズの作成等を実現。



昇降口に置かれたアンケートボックス



回収されたアンケート用紙を委員会へ振り分け



放送委員会が、校内放送で「今日のうらない」というコーナーを設け、学校生活が楽しくなるような話題を提供 8

子供の意見表明や社会参画に関する取組事例

国立市立国立第三中学校

校則検討委員会による校則の見直し

生徒会

- 「自ら考え正しい判断のできる生徒を育成する」ことなどを目的として、生徒の意見を取り入れた校則の見直しを継続して実施。各学級で意見を出し、生徒会や学級委員等で組織する「校則検討委員会」が中心となつて検討し、委員会としてまとめた案を校長に提案。
- 生徒には、自分たちが参加して見直した校則を守ろうという意識が生まれ、教員は、生徒にどう守らせるかという指導から、生徒を見守りサポートするという向き合い方へ変化が生じた。
- また、標準服・体育着と併せて私服登校も可とする「カジュアルウィーク」を生徒会の発案で実施。各学期10日間前後を設定し、TPOに合わせて自分らしく過ごしやすい服装を自分で選択。
- 放課後の図書館にて、生徒会がMYHA³RÜカフェをオープン。自習室や教え合い教室も開催し、読書をしたり、話をしたり、自習をしたりなど、自由な活動ができるような自分たちの居場所を自分たちで創出。



校則検討委員会の討議の様子



カジュアルウィーク中の授業の様子



生徒会運営「MYHA³RÜカフェ」の様子

子供の意見表明や社会参画に関する取組事例

山形市立金井中学校 生徒の声を授業改善に活かす

生徒会

- 「どんな授業であれば、より学びに積極的になれるのか」をテーマに、「授業を語る会」を実施。
- 生徒会執行部と先生たちが、「どんな学びを実現したいか」「どんな授業だったらよいか」「自分たちはどのように授業に参加したらよいか」をグループ討議を中心にして話し合う。「一方的に知識を詰め込まれる授業はイヤ」「一人ひとりの『わからない』を大切にしてほしい」「意見を出し合える授業は楽しいしわかる」「生徒同士で解決する話し合いの場面をつかってほしい」という意見が出された。
- 毎日毎時間受けている授業について話し合ってみることは、自分たちにとって「学ぶ」とはどういうことかを改めて考える機会になり、授業に取り組む姿勢も変わっていくことが期待できる。そして、生徒の率直な声が、先生たちにとって、学校評価、授業改善の方向性を見出していく手掛かりとなっている。



「授業を語る会」の話し合い



「授業を語る会」の生徒記録



「授業を語る会」の生徒意見発表

子供の意見表明や社会参画に関する取組事例

高知県立中村高等学校

校内での学びを本物の選挙に活かす

生徒会

- 2023年10月20日、選挙管理委員会と協力し、実際の参議院議員補欠選挙の期日前投票所を校内に設置。当日は、生徒が投票立会人を務め、選挙権のある生徒と教職員が投票。
- 選挙権のある生徒だけの取組としないために、選挙権のない1・2年生にも投票の様子を見てもらうことで上級生がロールモデルとなるよう、投票場所を玄関横に設営。
- 四万十市に住民票がない生徒（3年生）からは、「自分は今回の校内での期日前投票ができず残念だが、関心があり様子を見に来た。投票日には、地元で必ず投票に行きたい」との声がかれた。
- 2025年7月15日の参議院議員通常選挙でも、期日前投票所を校内に設置。
- 投票した生徒からは、「朝から投票するつもりで学校に来た」「緊張した」「授業で学習した選挙を体験できて新鮮」などといった感想がかれた。



校内投票所の様子（2023年10月20日）



校内投票所の様子（2025年7月15日）

子供の意見表明や社会参画に関する取組事例

岡山県立玉島商業高等学校

生徒会役員選挙のルールの見直し

生徒会

- ・ 生徒会執行部は、「生徒全員がGIGA端末を持っているのに、紙と投票箱を使用する生徒会役員選挙の方法は適切なのか」等の問題意識から、教師の適切な指導の下、「生徒会役員選挙のルールの見直し」との議題を選定。
- ・ 選定した課題をホームルーム活動で話し合い、クラウドを活用して課題等に関する全校の意見を集約。各種委員会と執行部で、XYチャート（思考ツール）を活用して課題を整理し、情報を即時全校で共有しながら考えを深め、生徒総会でルールの見直しを実施した。
- ・ 検討の過程で、「高校での取組が、社会を変えるきっかけにならないか」「端末を活用した選挙の方法に問題があれば、それを解決するルールを自分たちで作り、守ればよいのではないか」と、端末活用の賛否という二項対立ではなく、「どのように端末を活用すれば、よりよい選挙が実現するのか」と生徒の話し合いの質が大きく変化していった。



ホームルームや各種委員会との意見交換



岡山県選挙管理委員会からの聞き取り



話し合い活動のまとめ

学級経営に関する事例

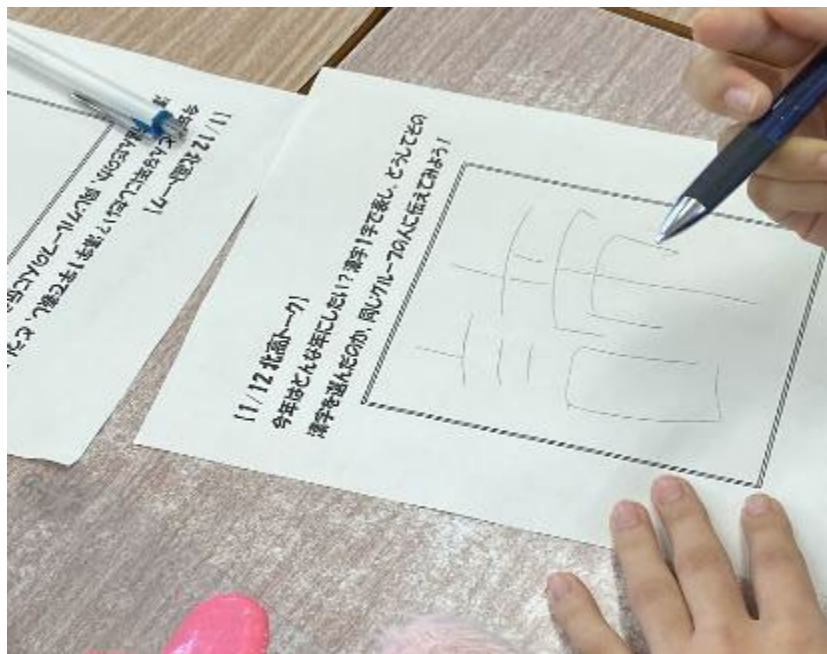
話し合い活動を通じて学級・ホームルーム経営の充実を図った事例

沖縄県立北中城高等学校

「“北高トーク”で支持的風土をつくる」

HR活動

- 沖縄県立北中城高等学校のあるクラスでは、**自信を持って発言することや、誰かの考えにきちんと耳を傾ける姿勢の育成が必要**な実態を踏まえ、**朝のSHR時に、「ビブリオトーク」(書評合戦)の手法を使った取組**（のちに名称は「**北高トーク**」へ名称変更）を**毎週1回実施**。（実施回数・頻度は年度によって異なる。）
- **共感、傾聴のルールを徹底**したうえで、**4人のグループになりあるテーマについて一人1分間発表**し、グループでNo.1を決定後、クラス全体に共有。徐々に拍手や笑いが起こる朝のSHRとなり、クラス全体が活気づくようになる。
- このクラスの教科の授業がやりやすくなったことを、教科担当の教師が実感したことや、遅刻や欠席の明確な減少が見られたことがきっかけとなり、翌年以降、他のクラスにも取り組みが広がる。**教科指導の基盤となる学級・ホームルーム経営に求められる生徒同士の人間関係と、生徒と教師の信頼関係の改善につながった。**



取組開始前は、「入学時、意見発表が怖かった。みんな受け止めてくれるのか、馬鹿にされないだろうか。」「他人にどう思われるか、恥ずかしさより不安だった。」という声が多かった。



発表のテーマは「自分の名前の由来」「テストで失敗した子どもを励まそう」「今年の漢字」など生徒からの要望を踏まえつつ、簡単な内容で設定。

話し合い活動を通じて学級・ホームルーム経営の充実を図った事例

南砺市立井波小学校

みんなで納得解を導く学級会が、 学級生活の満足度を高める

学級活動

- 5年生時には、学級や学年での生活に十分満足していない児童が多かった。そこで、6年生への進級するにあたり、児童の声を丁寧を受け止めながら学級経営を進めるため、**みんなが納得できる解決方法を導くために知恵を出し合い、合意形成を図る活動を継続的に行うことを重視し**、学級活動（1）における学級会を確実に実施した。
 - その結果、5年生の11月期に全国平均並みかそれ以下だったQ-U（※1）やソーシャルスキルの結果が1年後には大きく改善され、特に「**学級生活満足群（※2）**」は約2倍に増加し、**全国学力学習状況調査の学級活動に係るスコアも約4割向上した**。
- ※1 ここで言うQ-Uとは①「学校生活意欲」、②「学級満足度」、③「ソーシャルスキル尺度」の3つの尺度から構成され、子どもたちの学校生活における満足度と意欲、さらに学級集団の状態を測定するもの。
 ※2 学級内に自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている児童・生徒
- 自他の考えを生かしながらかし合うことで、友達の考えを尊重しようとする態度が育成された**。また、学級や学校全体の生活をよりよくするための活動においても、**多様な他者の立場に立って考える児童が増え、学級生活の満足度向上につながった**。



学級会ではみんなが納得できる解決方法の創出を重視

Q-Uの結果

	R6.11		R7.7		R7.11	
	井波小	全国	井波小	井波小	井波小	井波小
侵害行為認知群	14	16	11	11	16	16
学級生活満足群	23	43	52	52	43	43
学級生活不満足群	40	23	17	17	17	17
非承認群	23	18	20	20	30	30
友達関係	9.2	10.1	10.3	10.3	10.3	10.3
学級の雰囲気	8.8	10	10.3	10.3	10.2	10.2
学習意欲	9	9.6	10.1	10.1	9.5	9.5
総合	27	29.7	30.7	30.7	30	30

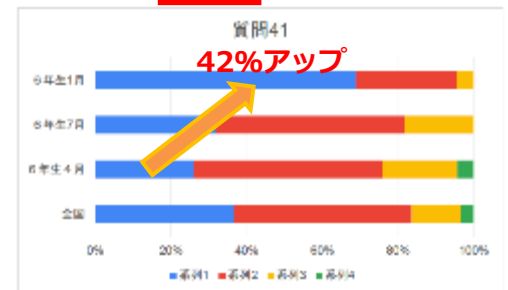
ソーシャルスキル

	R6.11		R7.7		R7.11	
	井波小	全国	井波小	井波小	井波小	井波小
配慮	27.6	27.8	29.6	29.6	28.9	28.9
かわり	24.4	24.3	26.4	26.4	24.5	24.5

学級生活の満足度が飛躍的に改善

質問紙41 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている

	どちらかといふはあてはまる	どちらかといふはあてはまらない	どちらかといふはあてはまらない	どちらかといふはあてはまらない
全国	36.5%	46.8%	13.1%	3.3%
6年生4月	26.1%	50.0%	19.6%	4.3%
6年生7月	31.8%	50.0%	18.2%	0.0%
6年生11月	68.0%	26.7%	4.4%	0.0%



全国学力学習状況調査 質問紙調査

話し合い活動を通じて学級・ホームルーム経営の充実を図った事例

摂津市立烏飼小学校、
烏飼東小学校、第五中学校

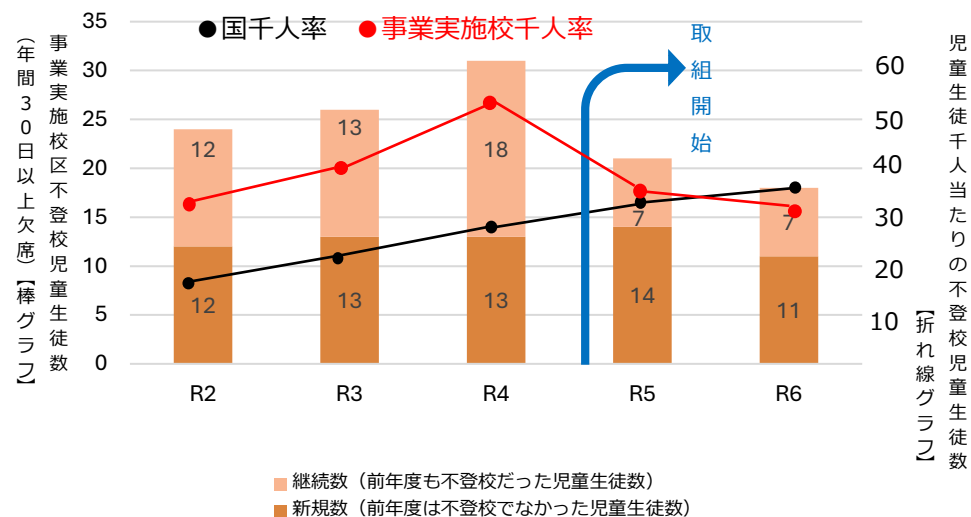
学級活動の充実が学校生活を向上し、 不登校の減少へ

学級活動

- 摂津市内の小中学校では、不登校児童生徒数が増加傾向にあり、全国平均と比べて暴力行為も多く、学校は事後対応に追われた。また将来の夢や目標をもっている児童生徒が少ないこと、自尊感情も低く、社会との関わりを持ちにくいことなどの課題があった。
- このため、市教育委員会として令和5年度から「子供たちが自治する学級・学校づくりへ」を掲げ、特別活動の充実を図ることとし、特に学級活動においては、学級や学校における生活づくりへの参画に積極的に取り組むこととした。
- 例えば、これまで教職員が決めていた運動場の使用ルールについて、子供たちが当事者意識をもって話し合い、協働して取り組むことにより、人の役に立ったという自己有用感が高まったり、「みんなで何かをすることが楽しい」と実感したりすることにより、学校生活の充実につながった。こうした取組が学習指導と生徒指導の一体化を充実させ、取組開始前後で不登校千人率が改善する効果も見られている。



学級活動では当事者意識をもって意見を発表したり、友達の話を受け止めたりすることを重視



国の不登校千人率は年々上昇しているのに対し、摂津市内においては事業開始後に不登校千人率が減少し、国の千人率を下回る。

話し合い活動を通じて学級・ホームルーム経営の充実を図った事例

南国市立長岡小学校

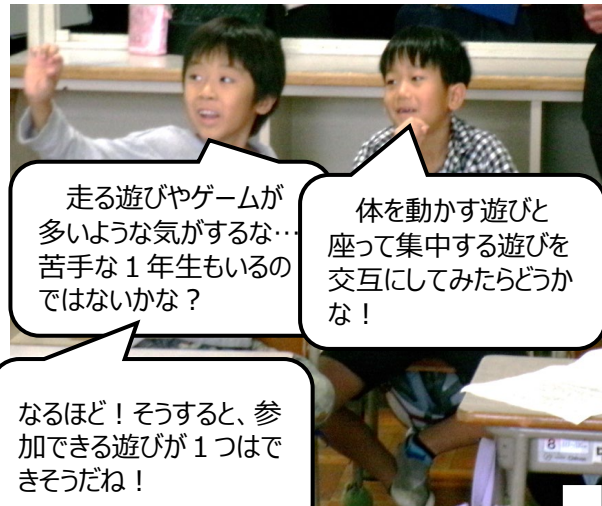
よりよい活動となるような工夫を考える

学級活動

- 自分たち（3年生）が主催する1年生との交流会において、1年生が楽しく過ごすことができるようにするためにどのような工夫ができるのかを議題とする学級会を設定した。
- それぞれのアイデアを短冊に書いて出し合い、自分と同じ又は近いアイデアにピンクカード（自分の立場を表すカード）を掲示し結果を概観した上で、どんな工夫ができるかを話し合った。
- 「自分たちのやりたい遊びに偏っているのではないか」、「少数派の意見も大事にする必要があるのではないか」等といった意見が出され、「興味」「体力」「得手不得手」等は人それぞれ異なるという視点を持ちながら、1年生も自分たちも共に楽しめるような工夫を考えようとする対話が行われた。
- ルールを工夫することや順番を工夫すること等を通して誰もが楽しく活動に取り組むことができる方法を考え、実際にやってみることで、実感を伴いながら、子供たちが多様であることを前提に皆が楽しく過ごせる活動を自分たちで作っていく交流会とすることができた。



自分カードで立場を決める（選択）



走る遊びやゲームが多いような気がするな…苦手な1年生もいるのではないかな？

体を動かす遊びと座って集中する遊びを交互にしてみたらどうか！

なるほど！そうすると、参加できる遊びが1つはできそうだね！

互いの思いや考えを認め合う（納得）



決めたことを実際にやってみる（実現）

特別支援学級における学級会の取組事例

昭島市立つつじが丘小学校

縦割りグループや複数教師を活用した 学級会の実施

学級活動

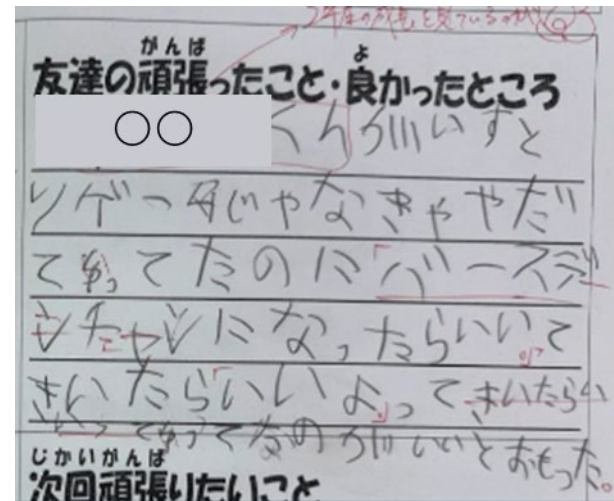
- 特別支援学級の全児童を7つの縦割りグループに編成。少人数で行うことで相談がしやすい環境を整え、**高学年児童が低学年児童へ自然に声を掛けられるようにするとともに、各グループに1名以上の教師が担当として入り、児童の実態に応じた指導を行っている。**
- 学級活動（1）は毎月、話し合い活動1時間、実践活動1時間を確保している。学級会での話し合いや、決まったことの実践を積み重ねる中で、**相手意識をもって自分の言動を考える姿が見られるようになってきている。**
- 振り返りについては、児童の実態に応じて、当てはまる項目に○を付ける形式と文章で表現する形式を選択可能。児童の振り返りからは、**友達の努力する姿や合意形成を図ろうとする意見に目を向ける様子が見られる。**こうした気づきが、**みんなでよりよい生活を創ろうとする意識につながり、次の活動への意欲に生かされている。**



縦割りグループを活用して議題や話し合う内容の確認



司会支援担当の教師が必要に応じて指導助言



振り返りから、友達の変容にも気付く

特別活動における交流及び共同学習の取組事例

横浜市立若葉台小学校

特別支援学校と「交流会」を実施

学級活動

- 特別支援学校の児童と共に活動することを通して、楽しいことや気づいたことを伝え合うことのできる他者と関わる力を育成することをねらいとして、両校の1年生の学級において「お楽しみ会」を合同で実施。
- どのような活動であれば一緒に楽しみながら実施できるか、また、一緒に楽しむにはどのような工夫をするとよいかなど、前時において学級内で話し合いを行った。オンラインを活用した日常的な交流の際に、特別支援学校の児童から「ものを倒す遊びが好き」ということ等を教えてもらったことを踏まえ、当日は、肢体不自由のある児童も一緒に楽しめる工夫を取り入れ、ボーリングなどの活動を共に実施。また、授業の終わりには、互いの思いを伝え合う手紙交換を行った。
- 特別支援学校の児童がボールを投げる際、投球台を支え、ボールを投げるのを手伝ったり、直接手伝うのではなく、見守り応援したりするなど、相手の思いを大切にしながら共に活動を楽しむ会とすることができた。

特別支援学校児童がボールを投げるのを支える



特別支援学校児童を見守り応援する



手紙交換を行い思いを伝え合う



(文部科学省特別支援教育課において作成)

子供の意見表明や社会参画に関する取組事例

町田市立七国山小学校

誰もが過ごしやすい学級生活を目指す
児童の声の具現化

学級活動

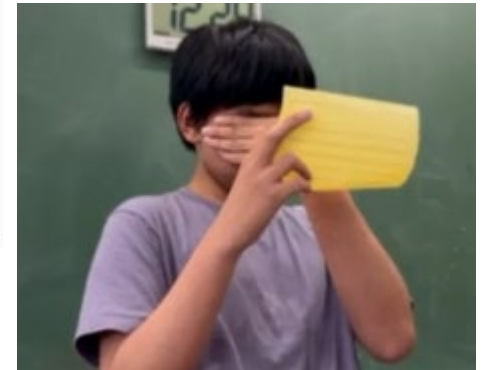
- 当該学級（第6学年）では、4月に入り、海外より児童が転入。生活の様子を見ていて当該児童の困り感に気が付いた子供が、「誰もが過ごしやすいための取組を考えたい」と提案。
- 話し合いの結果、①ローマ字の名札をつける、②集合写真に名前を入れてプレゼントする、③スライドを作って学校生活でよく使う言葉をローマ字と英語訳で説明する、④日直スピーチで改めてそれぞれの児童が自己紹介を行うことが決定。
- 学級での実践活動を通して、転入した子供が「学級のみんなへ気持ちを伝えたい」と一生懸命に日本語で文を考えて発表した。一人一人を大切にしたい学級の雰囲気が醸成され、よりよい学級生活の実現につながった。



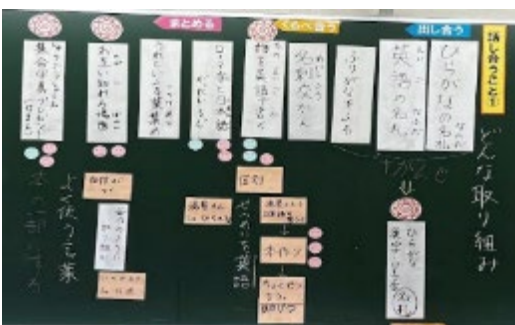
ローマ字の名札



英語で先生の紹介



学級のみんなへ感謝の気持ちを自分の言葉で伝達



集合写真



自己紹介のスピーチ

「誰もが過ごしやすいための取組を考えよう」という議題で話し合い

みんなで決めたことを実践

特別支援に関する事例

特別活動における交流及び共同学習の取組事例

小林市立東方小学校・東方中学校

特別支援学校と「合同運動会」を実施

学校行事

- 共通の目標に向かって心をつなげて努力する充実感を味わうことや、集団の一員としての自覚や協力的態度を養うこと、学校間の交流などをねらいとする運動会を、特別支援学校小学部・中学部と合同で実施。
- プログラムの中で、競技内容や必要な支援を工夫しながら、両校の児童生徒による団体競技やダンスを設定。結団式や競技の練習を合同で行い、児童生徒同士の距離感を縮め、関係性を深めながら、当日に向けた準備を行った。
- 合同運動会当日は、特別支援学校の児童生徒の競技の際に熱心に応援したり、合同競技の際には特別支援学校の児童生徒と自然にハイタッチしたり声かけをする児童生徒が多く見られ、共に活動し共に学ぶことや、協力して楽しむことを体感する運動会となった。



合同の結団式



ダンスの合同練習



合同でのダンス

(文部科学省特別支援教育課において作成)

特別活動における交流及び共同学習の取組事例

十日町市立十日町小学校 特別支援学校と文化祭を実施

学校行事

- 表現活動の興味・関心・意欲を高めるとともに、互いのよさや頑張りを認め合おうとする温かい心を育むことや、共生の理念を高める機会とすることなどをねらいとして、音楽発表を行う文化祭を、同じ敷地内に併設する特別支援学校小・中学部と合同で実施。
- 全ての児童生徒が体育館に一堂に会し、両校の児童生徒が互いの発表を鑑賞するとともに、両校の校歌を全員で合唱。また、総合的な学習の時間等で年間を通じて交流している小学4年生は、特別支援学校小・中学部の児童生徒との合同発表（合唱）を実施。
- 両校の児童生徒の関係性がより深まり、年間を通じた交流の更なる充実につながるとともに、合同発表を通して、同じ目標をもって共に一つの作品を作り上げることへの達成感や充実感につながる行事となっている。



小学4年生と特別支援学校小・中学部の児童生徒との合同発表



日常的な給食交流

特別活動における交流及び共同学習の取組事例

静岡県立田方農業高等学校

特別支援学校と学校美化活動等を実施

学校行事

- 同じ場・同じ目的をもった活動を通して他者を理解し協働する力を育成することをねらいとして、学校美化活動や地域の駅舎清掃を、高等学校内に設置されている特別支援学校分校の生徒と合同で実施。
- 美化活動の方法や進め方、担当箇所など、両校の生徒が話し合っ各自の分担を決めながら作業を実施。
- 高等学校の生徒は、特別支援学校で清掃の技術などを学ぶ生徒から清掃に関する知識やノウハウを教わったり、特別支援学校生徒の丁寧かつ整然とした作業を参考として自身の清掃作業を見直したりすることができ、また、特別支援学校の生徒は、想定外の場面での対応方法などを高等学校の生徒から学び、実社会で働く場面につなげて考えるなど、同じ目的をもった活動を共に行うことを通して、互いの良さを認め合い、学び合うことにつながっている。



校舎の窓拭き



地域の駅舎清掃



特別支援学校生徒から清掃のノウハウを学ぶ

(文部科学省特別支援教育課において作成)

特別活動における交流及び共同学習の取組事例

名古屋市立若宮商業高等学校

特別支援学校と合同で
スポーツフェスタを開催

生徒会・学校行事

- 多様性を理解し、互いに尊重し共に生きる社会の実現を目指す取組の一環として、複数種目の球技等のチーム戦を行う行事であるスポーツフェスタを、高等学校と同じ敷地内に設置されている特別支援学校高等部と合同で開催。
- スポーツフェスタの内容は生徒会を中心に企画。生徒会が両校の生徒全員に種目アンケートを実施し、バドミントンやバレーボールといった定番の種目と合わせて、高等学校の生徒が取り組んだことがなく、特別支援学校の生徒にとってなじみのあるフライングディスクを使ったアルティメットやアキュラシーも競技種目として採用した。
- こうした工夫によって、学校・学年の枠を超え、障害の有無にかかわらず共に競い合ったり協力したりする行事となり、両校の生徒の交流の機会の充実とともに、行事自体の活性化にもつながっている。



フライングディスクを使ったアルティメットの試合



フライングディスクを使った
アキュラシー



バドミントン

(文部科学省特別支援教育課において作成)

特別活動における交流及び共同学習の取組事例

宗像市立河東西小学校

日常的に交流学級で
学級会や係活動を実施

学級活動

- 校内の特別支援学級の児童が、1年時から月2～3回程度、交流学級である通常の学級の学級活動（1）に参加。
- 参加前には、朝の時間を活用し、特別支援学級において事前指導を実施。本時の議題や話し合うことなどを確認したり、自分の考えを表現する方法として、顔さや表情など多様な表現があることも具体的に指導したりしている。
- 交流学級での学級会への参加を積み重ねる中で、困った時には隣の友達が代わりに伝えたり、困っている様子に気付いて声を掛けたりする姿が見られるようになった。さらに、学級の中で心配や不安を解消するような意見が出されるなど、互いを理解し合う関係が育ってきている。
- 日常的に交流を重ねていることから、学校行事においても交流学級の一員として主体的に活動することができ、学級活動（1）を基盤とした日常的な関わりが、学校行事等における協働へつながっている。



交流学級での学級会へ参加



朝の時間等に議題の確認、意見の形成



交流学級での係活動（※）



学校行事も交流学級にて活動

※係活動については、登校後に特別支援学級で必要な準備を行ったり、休み時間に交流学級へ行ったりして一緒に活動

特別活動における交流及び共同学習の取組事例

沖縄県立高等学校

「一緒に生活や行事をつくることが当たり前」

HR活動・学校行事

- 複数の沖縄県立高等学校には、**特別支援学校の「分教室」や「高等支援学校」が併設**。
- 例えば、**沖縄県立やえせ高等支援学校は、沖縄県立南部商業高等学校内に併設**されており、両校の在籍生がともに学校生活を過ごしている。
- 南部商業高等学校の**学園祭でも共同学習が生かされ**、互いに支え合いながら**ステージ発表やバンド演奏を披露**。また、小学生を対象としたお仕事（社会）体験の学校行事「キッズ」でも**飲食ブースなどでやえせ高等支援学校生が活躍**している。
- そのほかの学校の分教室においても、高等学校の生徒と、特別支援学校の分教室に在籍する生徒との交流及び共同学習を積極的に推進。特に**ホームルーム活動や学校行事、部活動、自然体験、ICT活用のコミュニケーション活動**などを通じて、**共生社会の基盤となる社会性や協働性を育成**。



南部商業高校の学園祭や学校行事においては、やえせ高等支援学校に在籍する生徒も一緒に活動をしている。

学校行事・クラブ活動に関する事例



学校行事の充実に関する事例①

富士見市立鶴瀬小学校

計画の一部を児童が創造する学校行事

学校行事

- ・ 従前、全校遠足は教師が計画を立てて取り組んでおり、子供たちは指示されたことを守りながら活動していた。
- ・ 遠足先の公園で自由に遊ぶのではなく、全校で取り組める活動がしたいといった意見を受け、行った先の公園でどんな活動をするかを各学級で話し合うように代表委員会から連絡。各クラスで話し合った活動をもとに、代表委員会で、縦割り班でスタンプラリーに取り組むことに決定した。
- ・ 代表委員会が主体的に準備を進め、当日のスタンプラリーでは、下学年の思いを聞いたり、疲れていないかなど配慮する声が聞かれ、従来の学校行事からの変化が見られた。



全校遠足は教師が計画し、児童は教師に指示された通りに活動



各学級での話し合いを受け、全校遠足で縦割り班でのスタンプラリーを実施



異学年の児童が互いに協力し、下学年を配慮した活動を実施

学校行事の充実に関する事例②

江戸川区立葛西第三中学校

学びを学校生活への意欲につなげる指導の工夫

学校行事

- 学校行事の経験を、日常の学校生活をよりよく創造するということにつなげられるよう、**①教師による意図的・計画的なフィードバック**、**②異年齢集団による活動の意図的な設定**の2点を実施。
- ①では、教師が無自覚に行っていた行事と学習面を切り離すような指導から、**行事での頑張りを価値付けつつなげる指導を意識**。具体的には、高いレベルの目標達成を意識させ、スモールステップでの「頑張り」を積極的に価値付けるように心掛けることで、**教育的効果を6割を超える教師が強く実感し、生徒の感想からも実感を確認**することが出来た。
- ②では、意見交換をする機会を設け、多様な意見や価値観を理解する場を設定した。そのことにより、**「合唱祭だけでなく今後も協力していきたい」など、学校行事の経験をその後の学校生活の意欲につなげる生徒の姿が見られた**。



3年生と1年生がペアになって練習



生徒の自発的、自治的な活動



他学年との合唱交流の場を生徒自身が設定

探究×学校行事の取組事例①

佐渡市立新穂中学校

「課題解決型職場体験」(第2学年、50時間扱い)

マイ
探究

行動系

課題解決型職場体験を通して、仕事と佐渡のつながり、自己の生き方を考える

<単元の概略>

1 事前学習 (16時間)

- ・佐渡のよさや課題について意見交換するとともに、興味・関心に応じたグループをつくる
- ・事業所から提示されたミッションについて話し合う

2 職場体験を含む学習 (20時間)

- ・事業所の担当者と意見交換をする
- ・ミッションを意識して職場体験をする
- ・ミッションを解決するための提案をする

3 事後学習 (14時間)

- ・事業所を招いて発表会を開催する

- ・教育委員会、学校、事業所が構想したミッションを事業所から提示。人との関わり、ものづくり、企画、発信などのミッションがあり、例えば、図書館の展示コーナーづくり、木工品の新商品の開発、高齢者施設のレクリエーション企画、仕事の魅力の発信などがある。
- ・職場体験前に、事業所の担当者と意見交換（生き方仕事トーク）を通して、ミッションにつながる勤労観、人生観、佐渡の魅力や可能性などを深く理解する。
- ・職場体験では、仕事を体験するとともに、ミッションに関わる調査をしたり、解決策を提案したりするなど、事業所の担当者とミッションの達成に向けて話し合う。
- ・事後の発表会では、ミッションに対する提案スライドをプレゼンし、仕事と佐渡のつながりと自己の生き方を関連付けて振り返る。

※佐渡市全域で展開しており、写真は新穂中学校以外も含む



生き方仕事トークで、ミッションについて深掘りし、職場体験活動における課題解決への見通しをもつ



職場体験において仕事を体験しながら、ミッション解決に向けて調査したり、事業所の担当者と話し合ったりする



提案発表会では、生徒や事業所の担当者などとの意見交換によって、自己の生き方を考える機会となる 31

探究×学校行事の取組事例②

郡上市立
郡南中学校

学校行事の体験活動を総合に効果的に位置付ける

マイ
探究

行動系

各学年の学校行事を、総合の学習過程に位置付け、体験活動の充実を通して探究を深める。

- 第1学年 郡上研修（18時間）**
 長良川や郡上の自然・文化の魅力と課題について問いをもち、上流の川や山、地域文化を体験的に調査し、その学びを整理した上で、**自分たちにできる実践や地域への発信**へとつなげる。
- 第2学年 宿泊研修（18時間）**
 長良川に携わる人々や地域の取組について課題意識をもち、海・川・森のつながりや地域の課題を体験的に調査し、その学びを基に**地域や企業と協働する取組を構想し、「郡南マルシェ」や発信活動**へとつなげる。
- 第3学年 阪神淡路研修（21時間）**
郡上の強みを生かした教育旅行を提案するという課題の下、都市部との違いや企業のSDGsの取組を比較・分析し、その結果を基に**教育旅行プランを修正・再構成し、提案として発表**する。

※実践は令和6年度のもの

総合に位置付けた学校行事と探究の過程との関係

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
1年 郡上 研修	長良川・郡上の魅力や課題に着目し、「自分たちに何ができるか」という課題意識をもつ	川・山・文化を体験的に調べる（学校行事）	学びを整理し、実践の方向を考える	地域への発信や実践につなげる
2年 宿泊 研修	長良川に関わる人々や地域課題に着目し、「美並に暮らす自分たちに何ができるか」という課題意識をもつ	海・川・森のつながりや地域・企業の取組を調べる（学校行事）	学びを基に協働の取組を構想する	マルシェや発信活動につなげる
3年 阪神 淡路 研修	郡上の強みを生かした教育旅行を提案するという課題意識をもつ	郡上の魅力や旅行企画に必要な情報を集める（学校行事）	都市部との比較から郡上の価値や課題を捉え直す	教育旅行プランとして提案・発表する



郡上研修の様子



「郡南マルシェ」の様子

探究×学校行事の取組事例③

三豊市立 豊中中学校

「Let's enjoy 笑顔はじける僕たちの旅」(第3学年)

マイ
探究

行動系

修学旅行での農・漁業体験等を通じ、それまでの学習の総まとめを行う

<概要>

1 学年・人数

・第3学年94名全員参加

2 期間

・3泊4日

3 宿泊先

・市内ホテル2泊、
民泊1泊

- ・ 中学校入学から3年生に進級するまでの間、総合的な学習の時間等で実施してきた活動の総まとめとして長崎県南島原市への修学旅行を位置付け。
- ・ 実際にその地域の歴史、農産漁業、文化、人に触れることで、それまでの学習内容等と関連付け、その先の学習への意欲や、自身の生き方についての考えを深めることに繋げることができる。
- ・ 南島原市の一般家庭に宿泊し、農業・漁業等の家業の体験をしたり、寝食を共にすることで、勤労の尊さや協働することの大切さも、実体験を通して学ぶ。



民泊先の家庭は市の観光協会が調整



それぞれの宿泊先の家業を手伝い、学校で学ぶ産業を実体験



学んできたことを自分事としてとらえ、その先の活動や生き方に繋げる

探究×学校行事の取組事例④ (1/2)

天草市立
御所浦中学校

探究との関わりで行事の年間指導計画を再構成

テーマ探究
マイ探究

行動系

見直し① 行事の実施方法を見直し、地域探究を充実

- 総合で行っていた進路学習、修学旅行の事前事後学習等を見直し、**総合の時間の充実**など、**年間指導計画全体を再編**。

見直し② 行事の探究化

- 行事についても、これまでの**内容を見直し、生徒の興味・関心を踏まえた課題やねらいを設定**するなど、**探究的な学習となるよう実施プロセスを見直し**。

見直し③ 探究の充実

- ①によって充実した探究の時間のうち、**3年生においてはこれまで自身が学んだ事や深めた関心を基に、MY探究として一定の時間をかけて成果をまとめる時間を確保**。



事前学習等を踏まえ、実際に地域を訪ねて考えを深める活動を充実

授業時数と取り組み内容の変化

	変更前		
	探究	行事	計
1年	20 ふるさと探究	30	50
2年	25 ふるさと探究	45	70
3年	35 ふるさと探究	35	70

	変更後		
	探究	学校行事の事前・事後等に行う探究	計
1年	30 ふるさと探究 I	20 集団宿泊教室 4、 <u>世界遺産学</u> (※1) 12、キャリア 4	50
2年	50 ふるさと探究 II	20 修学旅行事前・事後11、キャリア2、立志式7 (※2)	70
3年	50 MY探究	20 キャリア10、卒業プロジェクト10	70

(※1) 天草市の歴史や文化を全員が実際に訪れて体験的に学べるようにした天草市教育委員会の推進事業。市内のすべての小・中学校で実施されている。

(※2) 元服に由来し、志を立てることを目的とした学校行事

探究×学校行事の取組事例④ (2/2)

天草市立
御所浦中学校

探究との関わりで行事の年間指導計画を再構成

テーマ探究
マイ探究

行動系

集団宿泊教室 (1年) ※学校行事当日を除き4コマ

課題の設定	訪れる場所の現状と課題、魅力を知る
情報の収集	芦北町 (人口、産業、観光など) について調べる
整理・分析	当日の日程や、班、係を確認してしおりにまとめる
まとめ・表現	集団宿泊教室のふりかえりをする

天草体験学習「世界遺産学」(1年) ※学校行事当日を含め12コマ

事前学習	課題の設定	訪れる場所の現状と課題、世界遺産について知る
	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・崎津集落 (世界遺産とは、登録の経緯、歴史や文化) について調べる ・崎津集落を取り巻く、河浦町の現状や課題を知る
	整理・分析	当日の日程や、班、係を確認してしおりにまとめる
当日	情報の収集	崎津集落に行って、世界遺産学を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・崎津集落の歴史や文化について知る ・世界遺産を守るための取組について知る ・観光客を増やすための工夫について調べる
事後学習	整理・分析 まとめ・表現	世界遺産学で学んだことを、まとめる <ul style="list-style-type: none"> ・新聞にまとめる ・パンフレットを作成する ・プレゼンテーションを作成する ・崎津集落の取組と御所浦町を比較し、意見交流する

修学旅行 (2年) ※学校行事当日を除き11コマ

事前学習	課題の設定	修学旅行の意義を知り、自分の課題を設定する
	情報の収集	旅行先について、調べる
	整理・分析 まとめ・表現	調べたものを整理・分析して、まとめる
当日	情報の収集	旅行先を訪れ、自分の課題について情報を得る
事後学習	整理・分析	修学旅行で学んだことを振り返り、しおりをまとめる
	まとめ・表現	修学旅行先で得た情報を分析し、魅力発信につなげる

立志式 (2年) ※学校行事当日を除き7コマ

課題の設定	立志式について知り、立志の言葉を考える
情報の収集	立志の言葉の表現方法を考え、これまでの活動をもと
整理・分析	に、立志の言葉を色紙に表し、文章にまとめる
まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・立志式で自分の決意を発表する ・自分の課題について振り返る

卒業プロジェクト (3年) ※学校行事当日を除き10コマ

課題の設定	地域や学校のためにできることを考える
情報の収集	卒業プロジェクトを実現するために必要な情報を集める
整理・分析	卒業プロジェクトに必要な準備を整える <ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具、物 ・協力が必要な人、事業所等
まとめ・表現	卒業プロジェクトを実行する

探究×学校行事の取組事例⑤

会社訪問を通して、自分の課題をみつける

マイ
探究

行動系

群馬県立高崎女子高校

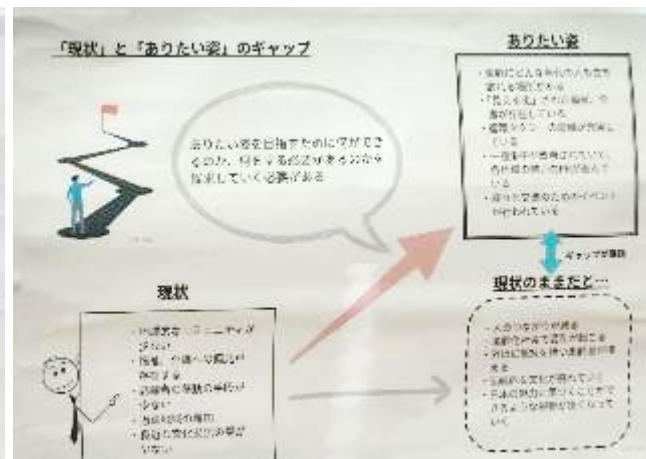
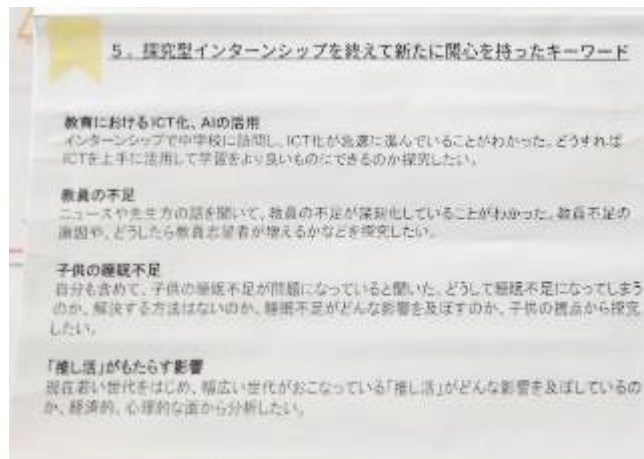
学校・社・官連携 探究コンソーシアム

- ✓ 1年生全員を対象に、探究型インターンシップを3日間実施。
- ✓ 生徒は自分の興味関心に基づいて訪問先を決め、自分で企業等に連絡・交渉して訪問。
- ✓ 会社は、問題解決や探究に最前線に取り組んでいるところと捉え、その取組を実際に経験する場となる。
- ✓ 自身の探究活動（テーマ研究）と関連付けながら社会課題に触れることで、自身の探究活動を発展させる。
- ✓ 成果報告会で自分の探究テーマの要素を検討し、課題を設定し、探究を開始する。

- ✓ ぐんまの中学校・高校・大学の教員、地域を支える企業、官公庁が連携し「自ら課題を設定し解決することを通して、主体的に社会を変えていこうとするぐんまの子どもたち」を育てるプラットフォームを構築。
- ✓ コアプログラムの共有・開発
- ✓ 人材育成ビジョン協議会、合同発表会、探究サミット等の開催。
- ✓ Webページ等を用いた積極的な情報発信を行う。Webページには「高校生インターンシップ 協力事業所一覧」も掲載。



インターンシップの様子



サブクエストからメインクエストを設定し訪問。当日の気づきから探究の課題の要素を挙げ、自分の探究の課題を設定につなげる。

自治体による探究型修学旅行の誘致の取組事例

北九州市

「北九州市のSDGs修学旅行2.0」

テーマ探究
マイ探究

行動系

地域ならではの探究型修学旅行の開発と販売による誘致

- 2024年度に、北九州市のSDGs修学旅行等の商品開発促進事業の一環として、「北九州修学旅行サポートセンター」を開設。北九州市ならではの歴史等の魅力や社会課題を考える「修学旅行探究学習プログラム」の開発を行い、旅行会社への直接販売を行う。さらには、探究学習のテーマ選定や見学先の予約、ワークショップ会場の手配、講師や大学生とのマッチング、精算等、様々な修学旅行のニーズにワンストップで対応し、学校や旅行会社の負担を軽減する。
- これまでの修学旅行の誘致は、観光振興を主目的に、宿泊施設や観光関連事業者が行政と連携していたが、「北九州市を訪れる」から「北九州市で学び・考える」に方向性を変えたことにより、これまで連携できていなかった地元企業や組織・団体と連携したプログラムとなった。
- ものづくりを中心とした先進的な企業を訪問するフィールドワークを通じた探究や、地元の大学生とリノベーションの進む地域の「まち歩き」による探究等、様々なオリジナルプログラムを開発している。

北九州の修学旅行で得られる 学習の3要素



SDGs

社会課題や環境課題の解決に向けた北九州市のSDGsへの取組を深く学ぶ機会を創出します。

体験型プログラム

体験型プログラムは、実践を通じ学びを提供し、理論だけでは得られない知識やスキルを身につけることを可能にします。直接的な経験を通して、問題解決能力や自己成長を促し、より深い理解を促進します。

探究学習

生徒自身が学習テーマを設定し、体験を通じて得た知識を基にさらに考察を深めることで、生徒の主体性を引き出し、将来の行動に繋げる力を育みます。



北九州SDGs探究学習プログラム

プログラム 01 SDGs未来都市北九州市で学ぶ

01 先進企業のSDGsへの取組

探究できる 知識の活用

6 7 8 9 11
12 13 14 15 17

<学びのポイント>
豊後とれた産業の歴史遺産を知ると同時に、現在も日本の産業界をリードする、ものづくりの最先端技術や環境問題克服の歴史、SDGsへの取組などを学び、全体セミナーで共有し探究するフィールドワーク&SDGsセミナー連動型・歴史プログラム。

<キーワード> #産業観光 #SDGs

プログラム例1) 先進的な企業を訪問するフィールドワークを通じた探究

プログラム 02 新入生地域の魅力を探究

02 デザイン思考の地域創生

探究できる 知識の活用

4 8 11

<学びのポイント>
逆産不産産の魅力を発見し再構築しエリア価値を高める。北九州市小倉・加賀地区まちづくりについて先駆者に学ぶ。新しい価値創出のあり方をデザイン思考で取り組む「まちのリノベーション」について大学生とのまち歩きを通して探究する。

<キーワード> #地方創生 #デザイン思考

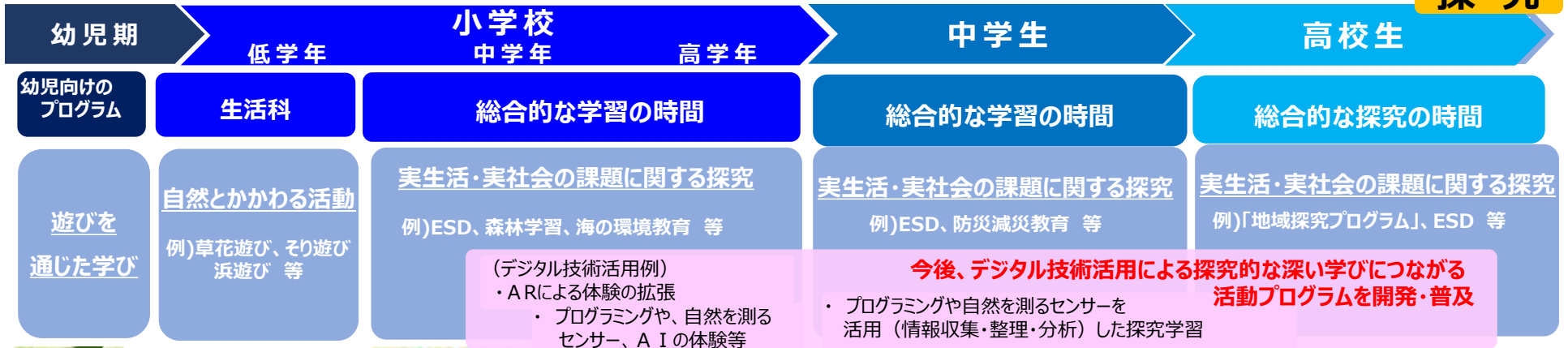
プログラム例2) 地元の大学生とリノベーションの進む地域の「まち歩き」による探究

体験活動における子どもの発達段階に応じた質の高い「探究的な学び」

(独) 国立青少年教育振興機構

- 深い学びを目指して、自然（森林・山、海）や地域社会の中で主体的に関わり、**実生活・実社会とのつながりの中で子供たちが身体を通して質の高い探究的な学びとなる体験活動**を提供。
- **発達に即した幼小中高校間における探究・探究的な学びの接続**を念頭に、他者との対話や協働を通じてよりよく課題を解決する、豊かな人生や持続可能な社会の実現に向けて行動しようとする力を育むため、**デジタル技術活用を含めた先駆的プログラムを開発・普及**。

探 究



森の活動

世界に一つ、自分の作品をタブレットで撮影・表現

源流探険

上流に向かって沢を上りながら水と周囲の環境との関わりを調べる。

森林・水の循環について教科学習と自然体験で得た知見・感覚を活かした往還的な深い学びへ

地域の学校・地域・企業など多様な人々と対話・協働しながら「地域探究」



カードゲームで森と人、職業などのつながりをイメージして問いをたてる

体験活動の中で森林と水の循環について発見、体感し、仲間と整理・発表

地域・社会にある課題解決に向けた取組を行い、新たな価値を創造

探究的な学び

各教科等： 総合的な学習の時間（探究）を中心に、理科・社会等の各教科と関連付けた教科横断的な体験活動や、他者との協働・対話の力を育むこと目的としたアドベンチャー教育など、特別活動や道徳等と関連付け、組み合わせた体験活動を提供。

【今後の学校との連携・教師負担軽減のためのサポート体制強化の方向性】

- 事前相談を通じた事前・事後学習でのサポート（教員や児童生徒が参照できる、動画、教材、指導案、ワークシート、振り返り・評価シート等ツールをこれまでの蓄積を活かして開発、学校等のニーズに応じて提供）。WEB上でダウンロードして学校でカスタマイズして活用いただけるプラットフォーム形成。
- 職員や外部指導員等による安全管理も含めた「直接指導」の充実
- 学校のニーズを踏まえた教員研修機会の提供
- 職員等による学校でのアウトリーチ活動と施設での体験との組み合わせ
- 機構職員のファシリテーション力向上 等

クラブ活動の充実に関する事例①

横浜市小学校特別活動研究会

デジタル学習基盤を活用した子供主体による
人数調整の取組

クラブ活動

- 子供たち一人一人が、次年度も継続したいクラブや新たに立ち上げたいクラブについて考え、「設置」に関する希望調査をアンケートフォームで実施（下図参照）。その中で、新たなクラブの立ち上げを希望する子供は、自分がつくりたいクラブの内容を投稿する。
- 教師が、環境面や安全面等の条件を踏まえ、クラブの設置の可否について検討した上で、子供たちは、自分が入りたいクラブに投票する。希望者が多い場合等には、自分たちで他に取り組みたいクラブへ移動するなどとして調整する。

Q1 来年度あるといいと思うクラブを全てえらんでください。（いくつ選んでもOK）

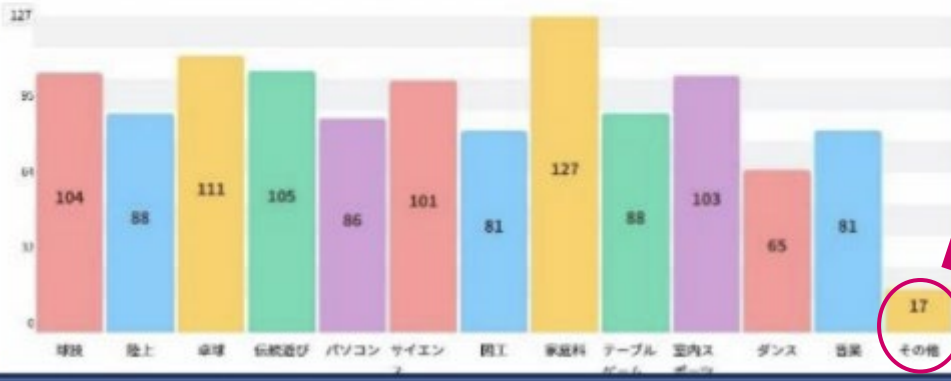
新しいクラブを作りたい場合は、「その他」をえらんでください。

ただし、①各学年がそろっている

②指どうできる先生がいる

③活動の場所や道具がある ことが条件です。

※ここでえらんだものが決まるわけではありません。



Q2 「その他」と答えた人は、どんなクラブがあるとよいか書いてください。

また、そのクラブでどんなことをしたいか具体的に書いてください。

ボードゲーム
将棋やオセロなどボードゲームをする

宇宙航空系クラブ
(宇宙や飛行機のことを調べ、実際に、飛行機の模型を作って飛ばしたりする。)

料理
色々な料理を作る

前年度のクラブをもとに、設置に関する希望調査をおこなうが、「その他」を設け、新たなクラブの立ち上げを希望する場合には、意見を投稿できるようにする

新たなクラブを希望する場合には、どんなことを取り組みたいか具体的に記述できるようにする

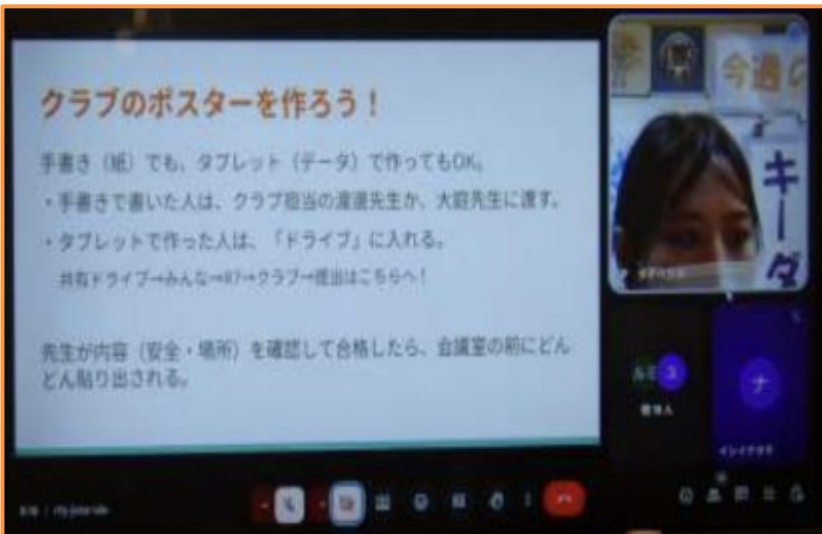
クラブ活動の充実に関する事例③

荒川区立峡田小学校

児童が発起人となってクラブを立ち上げる取組

クラブ活動

- 2月にクラブ設立説明会を行い、「設立の条件」等を示し、子供たちが、次年度に立ち上げたいクラブについて考える機会を設けた上で、「発起人」を募集。
- クラブの設立を考えた子供を発起人として、ポスターを作るなどしながら、同じ内容に興味・関心のある希望者を募る。
- 発起人を中心に話し合い、内容の整理や統合、活動場所の希望の調整を行い、3月にクラブ希望アンケートを行った上で、「設立の条件」などを踏まえて設立クラブを決定する。
- こうしたプロセスを通じて子供たちの主体性を活かした組織づくりにつなげている。



- ＜設立の条件＞
- ① 12名以上集まっていること
 - ② 全ての学年から2名以上参加していること
 - ③ 全ての学年が交流できる活動内容であること

クラブ設立説明会にて担当教師から次年度のクラブについて説明する

＜スケジュール＞

月	経緯
2月	<ul style="list-style-type: none"> クラブ設立説明会（発起人募集開始） クラブ設立申請締切 第1回発起人会議 ☆設立候補クラブ決定 第2回発起人会議
3月	<ul style="list-style-type: none"> クラブ希望アンケート回答開始 設立クラブ決定
4月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回クラブ活動

- 【第1回発起人会議にて集まったクラブ候補】
- ・ダンスクラブ
 - ・バスケットボールクラブ
 - ・バドミントンクラブ
 - ・プログラミングクラブ
 - ・ベースボールクラブ
 - ・音楽クラブ
 - ・手芸クラブ
 - ・サッカークラブ
 - ・ラップクラブ
 - ・小説まんがクラブ
 - ・美術クラブ
 - ・遊びクラブ

調整があったクラブ

- ・ダンス・ラップクラブ（2つが合体）
- ・サッカークラブ（なし）

クラブ活動の充実に関する事例④

三沢市立木崎野小学校

児童の声から地域人材・資源を活用した取組

クラブ活動

- **子供たちへクラブ設置希望調査**を行い、**どんなクラブ活動があるとよいかの意見を募集**。子供たちや教職員の人数をもとにクラブの設置する数を決め、**地域の人材の協力も得ながら、できるだけ子供たちの思いを生かしたクラブ**を設置。子供たちは、より専門性のある地域の方から学ぶ中で、**好きや得意を伸ばすなど個性の伸長**を図るとともに、**地域への愛着度の高まり**にも寄与している。
- 地域の人材や資源の活用等については、地域の連携コーディネーターも関与して実施しており、子供たちが**学校運営協議会に参加し、講師の募集や依頼**することも検討している。



地域人材を生かし、好きや得意などの個性の伸長を目指す

地域の資源を活用し、地域への愛着の高まりに寄与

デジタル学習基盤の活用に関する事例

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例

活動内容	活用事例		
学級活動	事例① 多様な意見を生かす事前の意見共有	可視化	
	事例② 1人1台端末を活用した学級目標の合意形成	可視化	
	事例③ 端末を活用した「学習」の意思決定	可視化	
	事例④ 「共有枠」と「本人枠」を設定した振り返り	蓄積	
	事例⑤ 端末を活用して意見の変化を即時共有	可視化 蓄積	
児童会・生徒会活動	事例⑥ 委員会活動の成果で課題をスライドにまとめ、課題解決を推進	可視化	
	事例⑦ 説明動画の事前配信による児童集会の活性化	可視化	
	事例⑧ 生徒会人権集会での生徒作成動画の活用	可視化	
	事例⑨ 児童による思いや考えの共有・蓄積	蓄積	
	事例⑩ グループ同士の振り返りを参照し合うことで、改善に生かす	蓄積	
	事例⑪ 代表委員会の話合いの様子を全校に発信	その他	
	事例⑫ GIGA端末を活用した生徒会役員選挙の見直し	その他	
	AI事例① 生徒会総会の事務作業をAIにより効率化	その他 (AI)	
	AI事例② 生徒会企画の練り上げや運営へのAIの活用	その他 (AI)	
	クラブ活動	事例⑬ 事前の打合せ・連絡・一人一人の意見を共有	可視化
		事例⑭ 動画による振り返りと協働的な学び	可視化 蓄積
		事例⑮ 主体的に活動し、互いのよさを認め合う	蓄積
事例⑯ 小規模校での、他校や地域とのオンライン交流		その他	
学校行事	事例⑰ 振り返りを全校単位で可視化し、行事の成果と課題を把握	可視化 蓄積	
	事例⑱ 振り返りの蓄積により成長実感を促す	蓄積	
	事例⑲ 運動会の表現運動のイメージを動画で共有	その他	
	事例⑳ 特別支援学級における遠足の事前指導での安心感の醸成	その他	
	事例㉑ 専門高校における実践的な「デパート運営」の実現	その他	

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例①

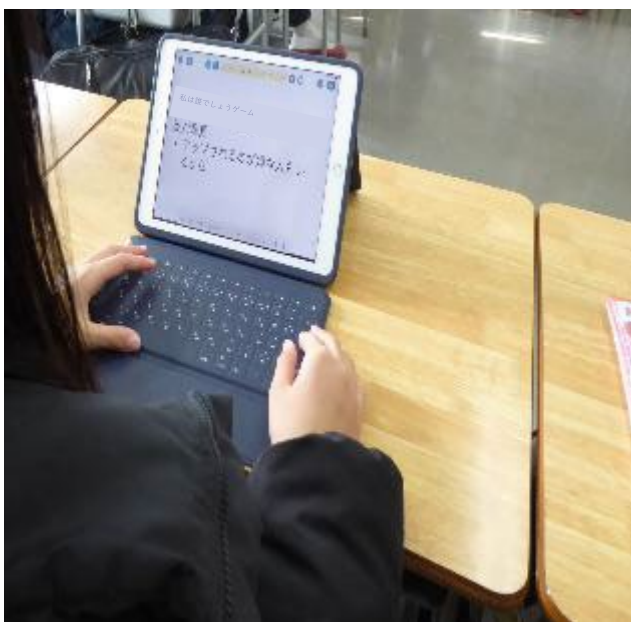
横浜市立西前小学校

多様な意見を生かす事前の意見共有

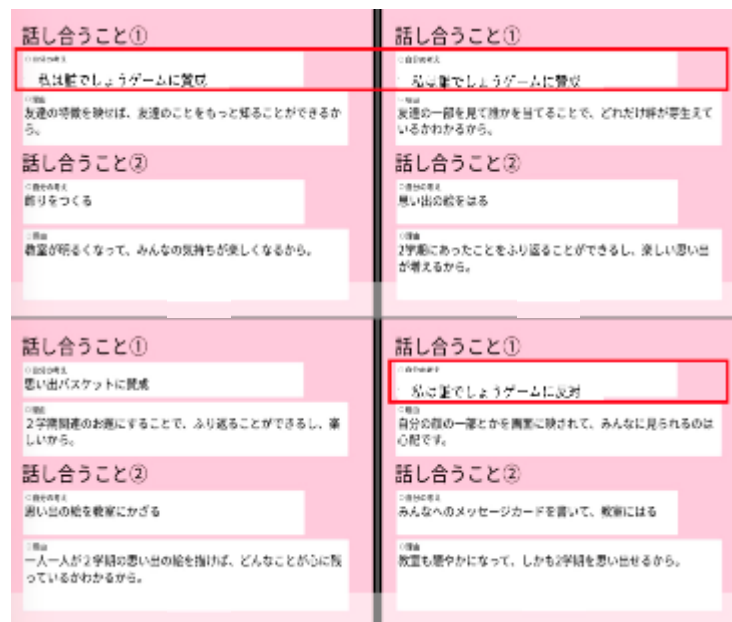
学級活動

可視化

- 一人一人が**当事者意識をもって**学級会に参加できるよう、**事前に自分の意見をタブレットへ入力**。無記名により、安心して自分の意見を表明。
- 意見をクラウド上で共有。**多様な意見に触れる**ことで、**同じ考えへの安心感**や、**異なる意見から生まれる新たな気づきのよさ**を実感。
- 特定の選択肢に賛成意見が多く集まる中、**心配する友達の意見を想起**。タブレットでその意見を確認し、**みんなが納得できる改善策を提案**。
- 全員が安心して参加できる内容**となるように話し合い活動を通して**合意形成を実施**。



事前に自分の考えをタブレットに入力し、クラウド上で共有



事前に集めた意見に心配と感じている友達の意見があったことをクラウドで再確認



賛成の意見を生かしながらも、心配な思いを解決するような改善策を創造して発言

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例②

東温市立重信中学校

1人1台端末を活用した学級目標の合意形成

学級活動

可視化

- 学級目標を決定する際、①全員の思いを可視化したい、②保護者の思いも聞いてみたい、③学級活動以外の時間でも取り組みたい、というねらいに対応できるよう、1人1台端末を活用。
- ①・②については、先に生徒一人一人の思いをテキストマイニングで可視化したものを、学級通信に掲載した上で、アンケートに回答してもらうように工夫した。
- さらに、学級活動の時間に、シンキングツールを用いて、学級の生徒全員の思いを分類・整理し、学級での話し合いを行った。最終的な候補になった意見について、アンケートフォーム上で最終プレゼンを行うことで、③実現につなげた。
- このようにして決まった学級目標について、全員で教室掲示を作成した。



特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例③

東村山市立東村山第五中学校

端末を活用した「学習」の意思決定

学級活動

可視化

- 学級の学習環境を整え、生徒一人一人が学習習慣を確立することが今後の進路選択や自己実現にもつながるとい
う思いから、**学級活動(3)Aとして、「自分に合った学習方法について考え実践しよう」という題材で授業を行った。**
事前アンケートを実施し、それぞれの悩みなどを**1人1台端末を活用して可視化することで、他者との悩みの共通
性について気付く機会とした。**
- アンケート結果を分析し、共通して挙げられた「意欲」「方法」「計画の立て方」の3点について話し合った。
その際、**1人1台端末の共有ボードを活用し、意見表明をしやすくすることで、様々な意見を吟味しながら考え
を深めることができた。**
- 3つのテーマについて、自分にあった「学習」を各学級の学習リーダーが代表で発表し、その様子を**ICT端末を活用し
て中継し、全学級の生徒が視聴できるように工夫した。**
- 最後は、生徒一人一人が、自分に合った「学習」について考え、実践に向けて意思決定する時間とした。

【学習に関するアンケート結果から】

【質問1】1学期の自分自身の家庭学習を振り返って



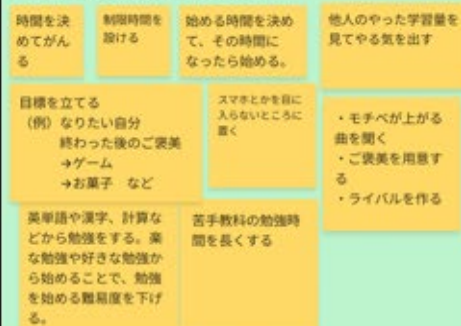
【質問2】家庭学習があまりできていない(または、できていない)理由について



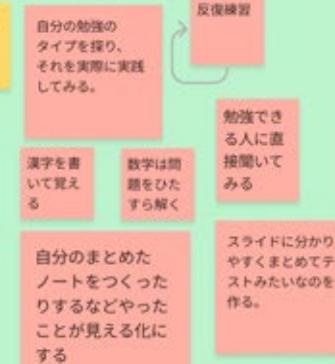
家庭学習アンケートの結果の可視化

2年2組 共有ボード

やる気を出すための工夫



学習の方法・やり方



意見の可視化と共有・分類



オンライン中継でプレゼン

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例④

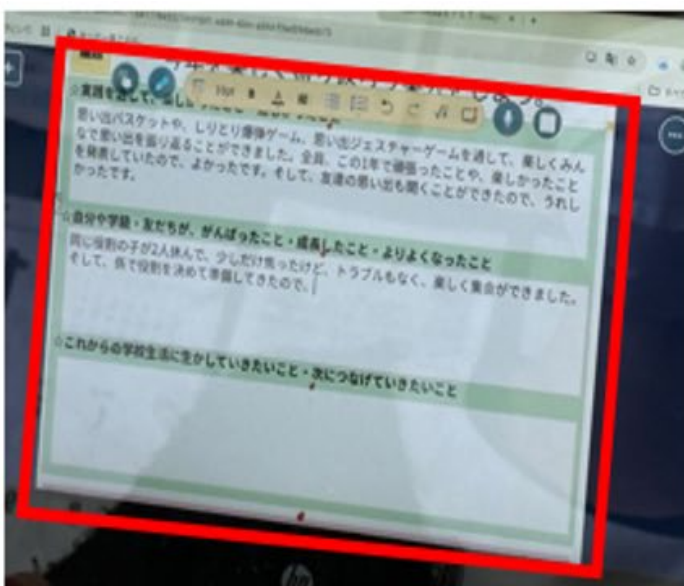
那覇市立城南小学校

「共有枠」と「本人枠」を設定した振り返り

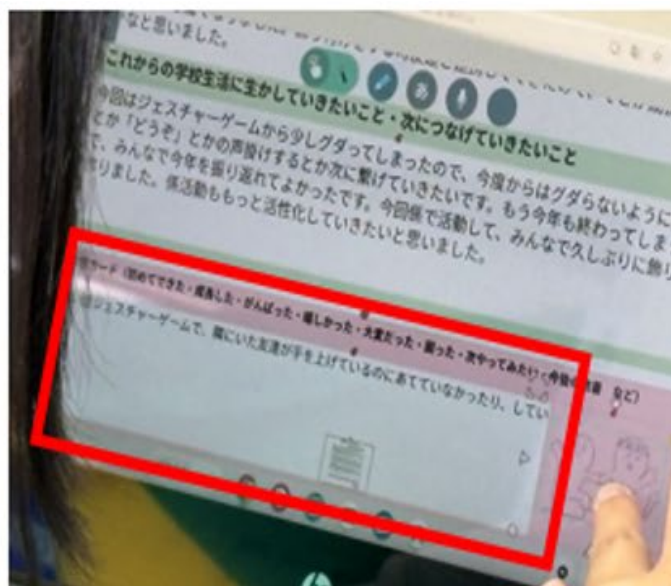
学級活動

蓄積

- 学級活動（1）で「2学期がんばったね会」を実践し、終了後にはデジタル学習基盤を活用して振り返りを行なった。
- デジタル学習基盤は、即時にお互いの考えを知ることができるよさがあるものの、自分が本当に困っていることや自分だけの気づきを積み重ねていくことで、次の活動につながることもあるため、振り返りのシートに「共有する枠」と「本人と担任しか見ることのできない枠」を設定した。
- 相談事などは必要に応じて担任が声を掛け、解決策を一緒に考えたり、次の活動に向けて意欲を高めたりしている。



実践に向けて自分が頑張ったことを入力しながら整理



他の人には言えなくても、大切なことや不安なことにも気付くことがある



デジタル学習基盤を活用してお互いのよさを共有

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑤

世田谷区立深沢中学校

端末を活用して意見の変化を即時共有

学級活動

可視化
蓄積

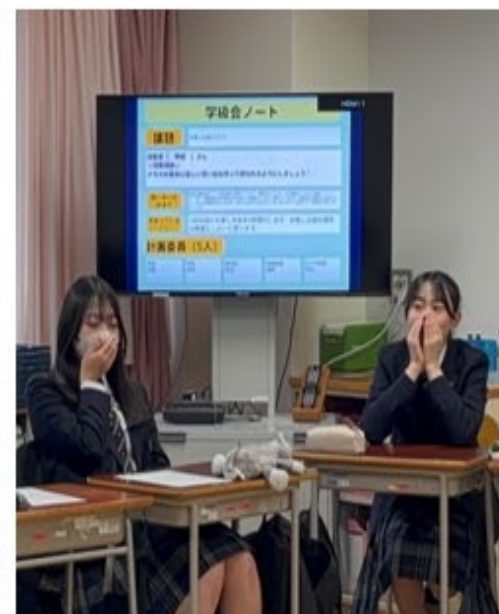
- 学級の生徒全員で取り組めるレクリエーションを決める話し合いに際し、まず、**ICT端末を活用して事前に意見を出し合い、授業が始まる前に学級活動委員会にて意見の整理、調整を行った。**
- 授業では、**話し合いの時間を区切り、その間で1人1台端末を活用したアンケートを実施。**司会の生徒は、**学級の生徒全員の意見がどのように変化したかをリアルタイムで確認しながら、話し合いを進行した。**
- これにより、**各生徒の許容範囲が広がっていく様子が可視化**され、その時点での学級の生徒全体の意見を踏まえ、話し合うべきことがらを明確化して話し合うことができ、**みなが納得する形で合意することができた。**



1人1台端末を活用したアンケート結果の即時共有



変化するグラフの様子



話し合いの記録もICT端末で行う 49

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑥

さいたま市立善前小学校

委員会活動の成果で課題をスライドにまとめ、
課題解決を推進

児童会
活動

可視化

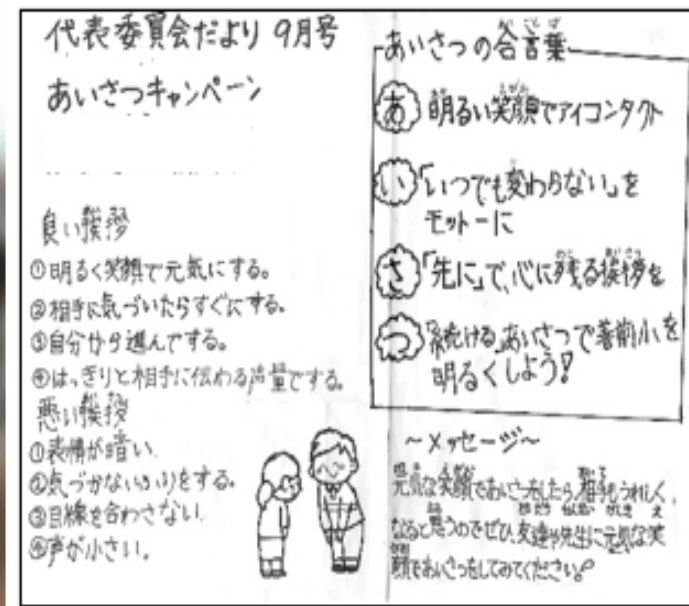
- 代表委員会では、学校生活を元気に過ごすことができるように「あいさつキャンペーン」を実施した。
- しかし、一定期間実施する中で、**元気なあいさつが十分に行われていない**状況が見られた。そこで、代表委員会が、「**あいさつリサーチ班**」と「**あいさつ運動班**」に分かれ、それぞれの班で感じた**成果や課題をスライドにまとめる**こととした。
- 代表委員会では、これらのプレゼンテーションをもとに**解決方法を話し合った**。
- その結果、**全校テレビ放送において、あいさつリサーチの結果を報告**することとし、よりよいあいさつについて合言葉を作成し、呼びかけを行った。また、「**あいさつすごろく**」を作成し、子供たちが意欲的に取り組めるようにした。



プレゼンテーションソフトを使ってまとめることで、代表委員会の全員が成果や課題を共有することができた



写真や動画で問題を共有することで、課題を具体的に捉えた話し合いとなった



全校への共有すべき内容を、テレビ放送、新聞、あいさつすごろく作成など、様々な方法で呼びかけた

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑦

川越市立芳野小学校

説明動画の事前配信による児童集会の活性化

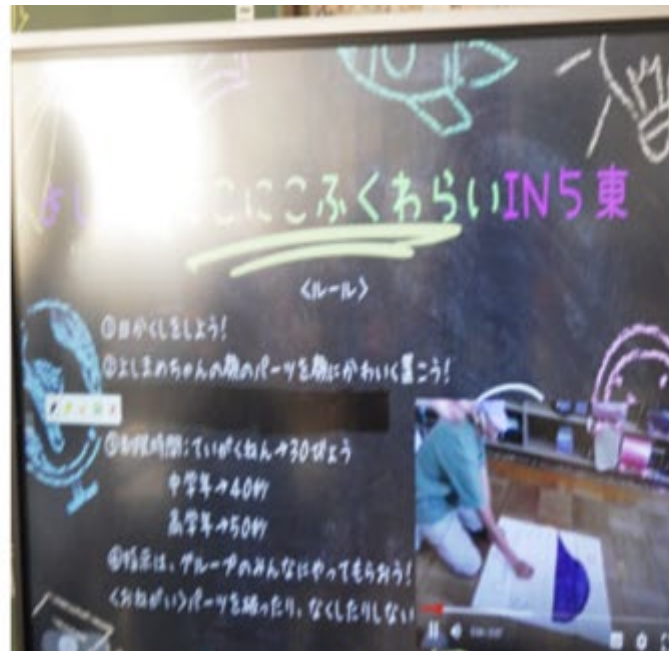
児童会
活動

可視化

- これまで児童会集会活動を実施する際には、集会活動の時間内にルールの説明等を行っていた。しかし、内容が十分に伝わらず、低学年や特別支援学級の子供たちが楽しめていない状況も見られた。
- そこで、委員会担当の子供たちが事前にゲームの趣旨やルールを説明する動画を作成し、クラウド上で共有するようにした。各学級において事前に視聴することで、活動の様子を具体的にイメージでき、多くの子供たちが見通しをもって参加できるようになった。その結果、集会当日を楽しみにする子供の姿が増えた。
- 説明する時間の短縮により、活動時間を十分に確保することが可能となり、効率的な集会活動の運営にもつながった。



誰にとっても分かりやすくなるよう、実際の活動の様子を具体的に撮影



参加する子供たちが、事前に説明動画を視聴することで、活動のイメージをもって参加



実践する時間を十分に確保でき、全員が満足感をもって集会活動へ参加

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑧

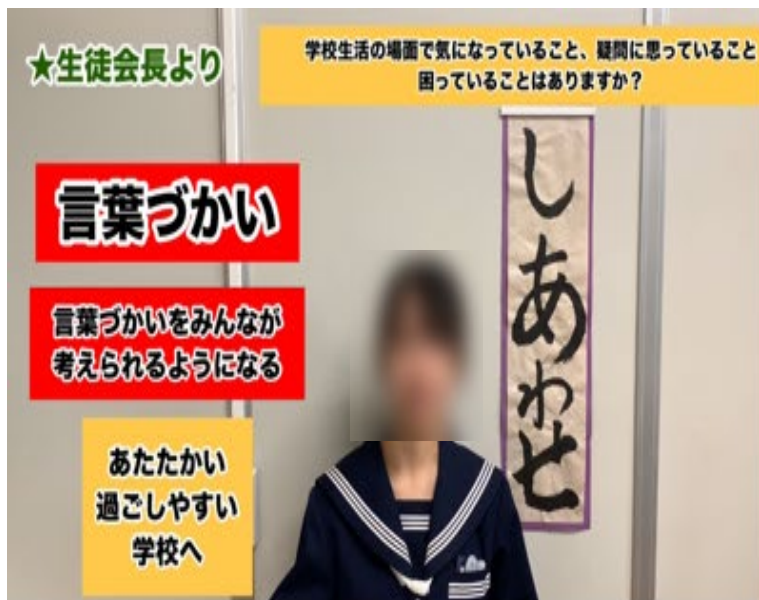
近江八幡市立八幡中学校

生徒会人権集会での生徒作成動画の活用

生徒会
活動

可視化

- **生徒の人権意識を高め、学校をいじめのない誰もが安心して過ごせる場とするため、生徒会が人権集会を企画。** 事前に、1・2年生は学級ごと、3年生は学年で、教師も含めて人権フラワーを作成した。
- 人権フラワーを作成する目的や作成手順について、**生徒会役員が5分間の動画をICT端末を活用して作成。** 全ての生徒が動画を視聴して、理解できるように工夫した。
- 人権集会当日は、生徒会本部・執行部による人権企画及び人権読み聞かせを計画。読み聞かせの最後には、「一人一人が大切にされる、あったかい気持ちになれる学校」にするためにはどうしたらよいか、全校生徒で考えた。
- **最後は、各学級・学年が作成した人権フラワーについて紹介し、そこに込められた思いや決意をそれぞれが発表し、共有した。**



人権フラワー作成の目的や手順を伝える動画



人権フラワーはスライドにして集会当日に投影



人権について考えるケーススタディ動画

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑨

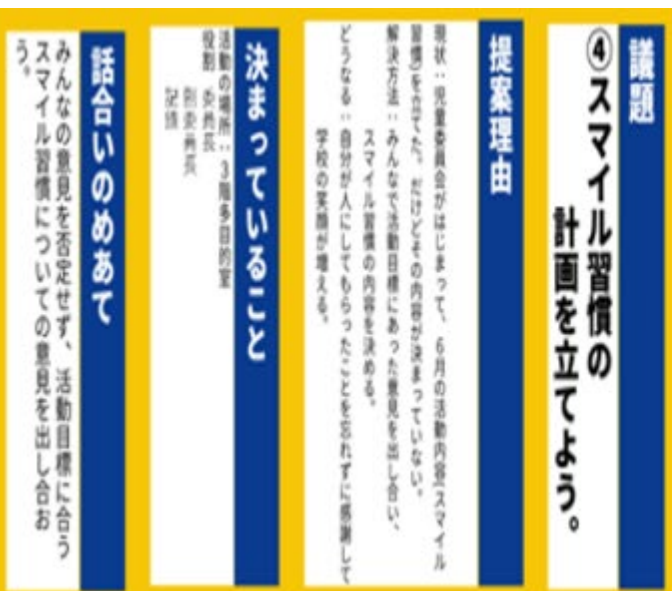
釧路市立城山小学校

児童による思いや考えの共有・蓄積

児童会
活動

蓄積

- ・ 委員会活動を行う前に、委員長等が「議題」「提案理由」「話し合うこと」に加え、「事前に考えてほしいこと・行ってほしいこと」を記入できるシートを作成し、各委員に配信。
- ・ 併せて、話し合い活動や実践活動を進める際に、事前に立てた活動計画や過年度に作成した資料を参照できるように、計画や資料を蓄積するノートも整備。
- ・ 各委員長等が共有した情報を基に、委員会担当の教師があらかじめ共同編集により補足・修正することで、事前の打合せ時間を短縮。
- ・ さらに、事前に計画案等を発信することで、教師主導から子供たち主体の委員会活動へと変化。



委員長等が中心となって、事前に話し合うことや計画を整理し、事前に共有することで、見通しをもって活動へ参画

事前に作成した活動計画や過年度の資料を共有・蓄積するノートを整備

デジタル学習基盤を活用することで、各委員会が目標の実現に向けて、一人一人が自分事として活動に取り組む

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑩

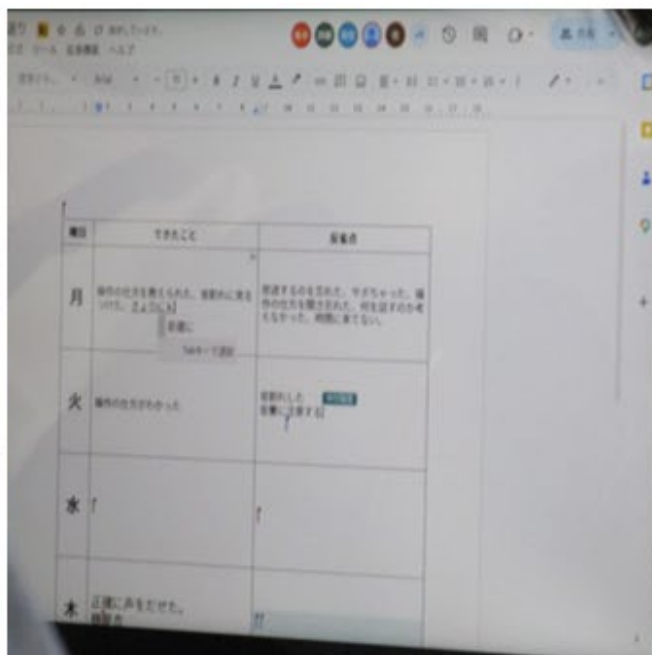
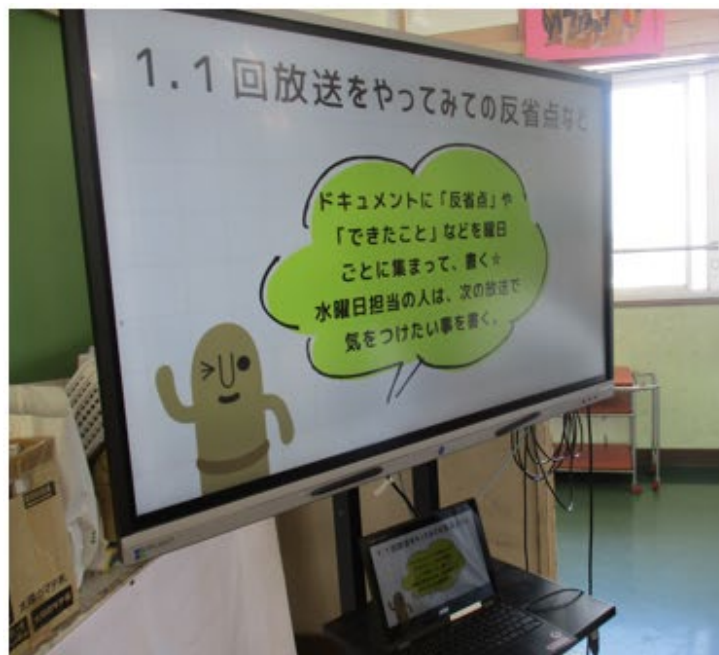
川越市立山田小学校

グループ同士の振り返りを参照し合うことで、改善に生かす

児童会
活動

蓄積

- 委員会活動では、活動前に振り返りの視点（活動を通して「よくできたこと」「改善点」）を共有することで、課題意識をもって活動や振り返りを行うことができる。
- デジタル学習基盤により、他の担当グループの振り返りも即時に参照できるようにし、互いの活動状況や振り返りを比較・参照しながら、自分たちのグループの活動を充実させるための改善策について話し合い、実践する取組を積み重ねることで、主体性や活動への参画意識を育むことにつながっている。



委員会用の共有ツールで、振り返りの視点を事前に確認

グループごとに振り返りの視点に沿っての話し合い。共同編集ツールに振り返りを入力し、他グループの内容も参照

教師は児童の話し合いを見守り、必要に応じて活動の充実や改善につながる指導助言を実施

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例①①

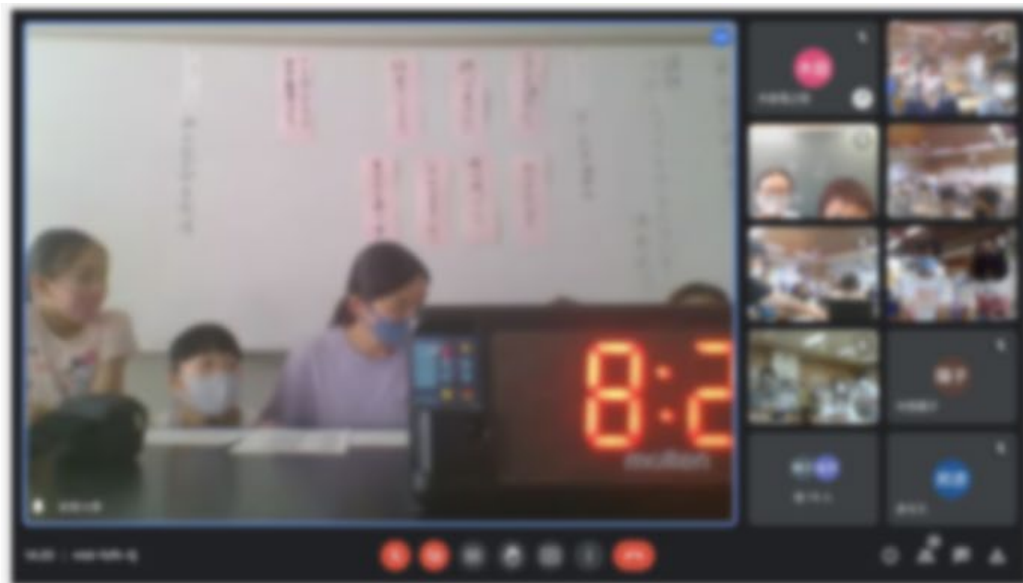
宗像市立河東西小学校

代表委員会の話合いの様子を全校に発信

児童会
活動

その他

- 代表委員会では、学校生活の充実と向上を目指して話合いを行い、決定した内容を全校の子供たちへ報告したり、学校生活をよりよくしたりするような取組を実施。こうした活動の理解を深めるため、代表委員会の話合いの様子を全校で視聴できるようにした。
- これにより、代表委員会がどのような視点で学校生活を改善しようとしているのかを共有でき、学級活動への関心が向上。
- その結果、低学年からは、「私も早く高学年になって学校のために話し合ってみたい」という意欲が見られ、高学年からも「全校が見ていることを意識して頑張る」という主体的な姿が見られるようになっている。



代表委員会の話合いの様子を全校に発信し、学校生活向上に向けた意欲を高めている



画面越しであっても、自分たちの生活をよりよくするための話合いの様子を真剣に視聴55

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑫

高知県立嶺北高校

GIGA端末を活用した生徒会役員選挙の見直し

生徒会
活動

その他

- ・ **生徒会活動の形骸化、生徒会執行部のなり手不足などの問題**から、よりよい高校生活の実現のために全校生徒で「生徒会執行部の組織の見直し」や「生徒会役員選挙のルールの見直し」について検討。
- ・ **端末を活用しアンケートを繰り返したり、より効果的な投票方法について合意形成**したりした結果、単純多数決、決選投票の課題を確認し、ボルダールール、是認投票を採用。
- ・ **端末を効果的に活用した選挙を実現**するとともに、生徒会活動の打ち合わせや委員会会議における連絡調整も、**端末の活用で効率的な運用になる**など改善が見られ、**選挙の活性化を実現**した。

16 会長選挙の電子投票画面（生徒端末）

会長選挙（定員1）
ボルダールール

	1位（4点）	2位（3点）	3位（2点）	4位（1点）
磯田信長	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
豊臣秀吉	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
徳川家康	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
千利休	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

部外者に非公開かつ
秘密投票に対応

ボタンを選択するだけ
なので簡単

集計の手間やミスの
心配がない

（紙では困難）

17

20 選挙の活性化に成功

生徒会長選挙の競争倍率

令和5年度 1倍

令和6年度 3倍

令和7年度 4倍

令和7年度の選挙全体では

73人中14人が立候補

（1・2年生の2割弱）



21

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑬

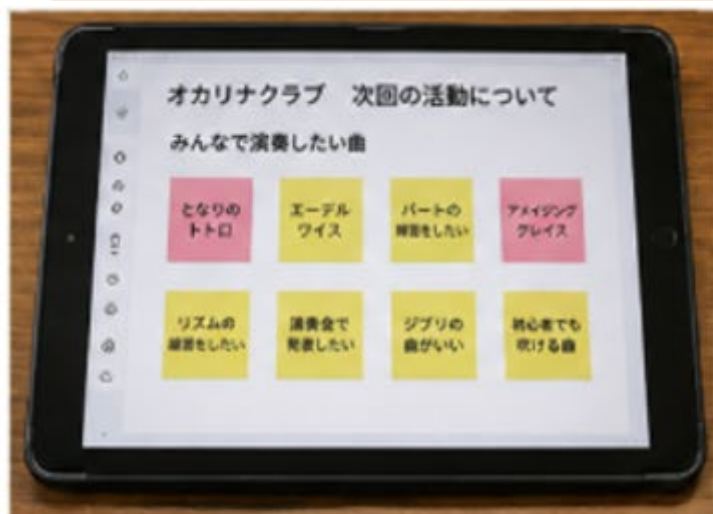
宗像市立自由ヶ丘小学校

事前の打合せ・連絡・一人一人の意見を共有

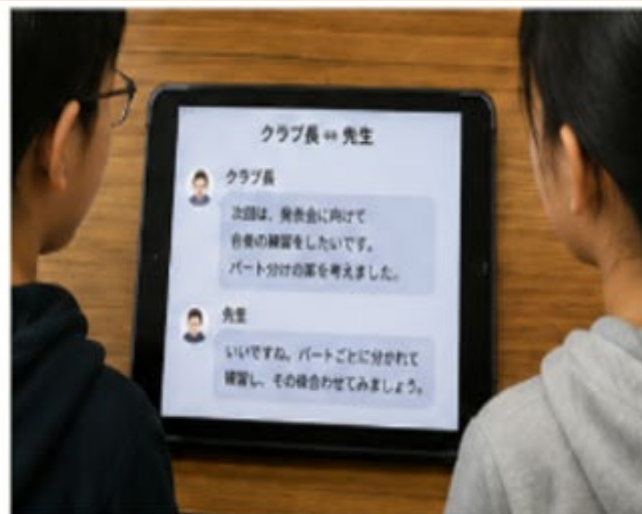
クラブ
活動

可視化

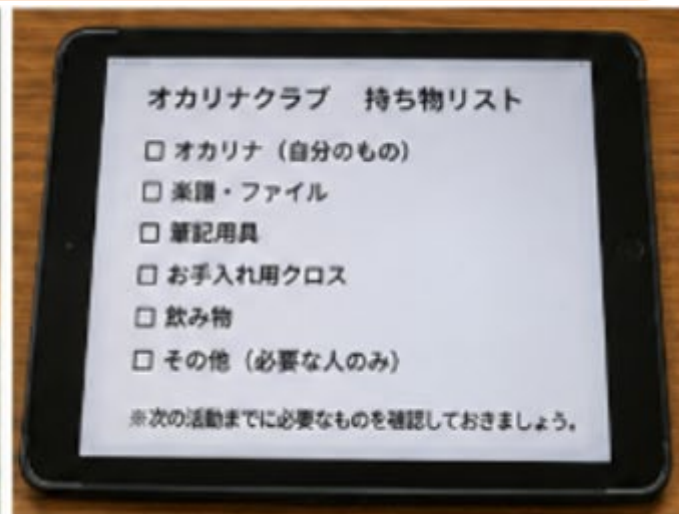
- クラブの活動時間を確保したいとの子供たちの意見を踏まえ、活動の最後に振り返りを行い、**次回に向けた課題や取り組みたいことについて、デジタル学習基盤を活用して共有。**
- これにより、**話し合いに要する時間を短縮**するとともに、**一人一人が意見を出すことができ、活動への参画意識が向上。**
- 次回の活動準備にあたっては、クラブ長等と担当教員が、事前に**タブレットの共有ファイル上で随時コメントの記入や修正を行い、効率化**を図っている。
- 従来の放送によるお知らせ等と比較して、**いつでもどこでも確認**できるようになり、活動の見通しをもつことにもつながっている。



次回の活動に向けて、演奏したい曲や練習内容等について意見を出し合う



クラブ長と担当教員が、活動計画や役割分担等について事前に打合せを行い、効率的に準備



連絡事項を端末で共有し、いつでも確認できるようにすることで、主体的な活動につなげる

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑭

大田区立立新井第五小学校

動画による振り返りと協働的な学び

クラブ
活動

可視化
蓄積

- 室内スポーツクラブでは、楽しさとともに技能の向上を目指したいという子供たちの思いから、審判などの係を担うチームの役割として、試合の様子をタブレット端末で動画撮影。
- 振り返りでは、撮影した動画を共通の視点として、よかった点や改善点について話し合う中で、異年齢の子供たち同士でのプレイの仕方や工夫の共有や、課題の克服に向けた取組を互いに認め合う様子が見られている。



試合の様子を動画で撮影



撮影した動画を見ながら、よかった点や改善点を話し合う



改善点を意識しながら、楽しさと技能の向上を目指す

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑮

ふじみ野市立大井小学校

主体的に活動し、互いのよさを認め合う

クラブ
活動

蓄積

- 調理・手芸クラブでは、全ての子どもたちが主体的に活動できるよう、グループごとに共同編集が可能な活動計画書を作成。
- 全ての学年が在籍しているため、下学年の意見も大切にしながら、調べたことや実際に取り組んだ際のコツなども書き加えていくことで、よりよい活動にしたいという意識が高まっている。
- 制作した作品は写真に撮り、作品の特徴や工夫した点などのコメントを付してクラブ内で鑑賞。互いの取組を認め合う機会を設けることで、活動への意欲が一層向上。



担当グループが話し合い、「次の活動内容」をクラウド上で共有

羊毛フェルト	
イメージ写真とか貼ってね	作り方 ①羊毛を手である程度まとめ②ちょうどいい力で刺す（同じ力加減で刺し続ける）③顔、鼻、耳などの細かい部分は小さいかたまりから始める コツ 刺す力を強くしすぎない。
材料 羊毛（自分の好きな色）（キットでもオッケー）、羊毛針（ニードル）	

活動計画書にコツなどを書き加えることで、主体的に活動を運営



蓄積された活動計画書を参照、教え合い

みんなで作った作品です！！

みんなでたくさん作ったね！素敵な作品だったので、みんなで見合いました！



ケーキのマスコットがとても上手だね。今度作り方教えてね。

丸くなるコツを試してみたら、きれいに丸くなってうれしかったな。目玉焼きも一緒に作れてうれしかったよ。

作品や振り返りを共有し合うことで、互いに認め、活動への意欲を向上

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例①⑥

宗像市立大島学園

小規模校での、他校や地域とのオンライン交流

クラブ活動

その他

- 小規模校のため、互いのことをよく知っている一方で、人間関係が固定化し、多様な人と関わる機会が少ないことが課題。そこで、子供の声を踏まえ、デジタル学習基盤を活用し、他校で同様の活動に取り組んでいるクラブの子供たちと関わる機会や、専門家と交流する機会を設定。
- これにより、少人数では気付きにくかった考えや活動の工夫に気付いたり、自分たちの取組を紹介する中で、そのよさを再発見したりすること、また、地域の専門家とオンラインでつながり、質問したり、アドバイスを受けたりする取組につながっている。



意見を可視化しながら、活動内容を決める話し合いを実施。
その中で、他校で活動する友達や専門的な方に質問したいという声があがった。



他校との交流や専門的な知識をもつ方々と交流を行い、活動を充実。

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑱

大分大学教育学部附属小学校

振り返りを全校単位で可視化し、
行事の成果と課題を把握

学校行事

可視化
蓄積

- 避難訓練の事前学習を訓練時にどのように生かすことができたかという視点で、一人一台端末のアンケート機能を活用し、振り返りを実施。
- 全校で統一した質問項目については、円グラフ等で可視化するとともに、個人の成長や成果・課題については、記述回答により把握。
- 子供たちだけでなく、教師もアンケート機能を使って振り返りを行い、担当教師が集約をし、成果と課題を健康安全部等で検討した上で、次回や次年度の避難訓練に生かしている。
- 子供たちは振り返りの内容をもとに、日常生活での行動も改善しようとしている姿が見られる。



津波を想定して高台へ避難する訓練を実施



全校で統一した質問については、円グラフ等で可視化

去年よりもおもしろい出来事や課題の発見が出来たのが良かったです。課題は、ちょっと前が空いていたので課題だと思いました。

前回より、全体的に《し》が出来ていたのいいと思います
前回の自分は少し気が散っていたこともあり今回の避難訓練では気を集中出来ていたのいいと思います。
《し》は出来ましたが些細な音などはあまり気づけられませんでした。市民の人のことを考え行動していたので私が見えたりは良い高台避難訓練ができたと思います。

がんばったことは特に公の力を意識したことですが
課題は少ししゃべったから次は頑張りたいです

地域の人が行ったり、学校に帰ったりしていた時、家の前に立っていたり、犬の散歩をしていて、その人たちに自然にお話をすることができたり、学校の右側通行などのルールも実行できました。

全校の子供たちの成果と課題を集約できるため、
子供の声を生かして次の計画を立てることが可能

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑱

吉野川市立知恵島小学校

振り返りの蓄積により成長実感を促す

学校行事

蓄積

- デジタル学習基盤を活用して、**学校行事の振り返りを1枚のシートに蓄積**。これにより、過去の学校行事を踏まえて活動に取り組んだり、自分自身の成長を実感。
- 学校行事ごとの内容に応じた質問と、継続的に用いる振り返りの質問**を組み合わせ設定。特に内容に応じた質問については、チェック形式にすることで、**学校全体の取組の成果等を把握しやすくしている**。
- 低学年においては、プリントに記入した内容を写真で撮影し、個人フォルダに保存**することで、必要に応じて過去の記録を参照できるようにしている。これにより、自分自身の成長を振り返りやすくしている。

		楽しかったですか	チェック	チェックした理由	行事をふり返って	チェック	チェックした理由
5月13日 遠足 (聖徳体育館・新聞社見学)		楽しかった	<input checked="" type="checkbox"/>	聖徳体育館ではたくさんの種類の菜の花を学び、特に心に落ちたのは前より良かった。他にも洗濯バサミで染をつけて染めるのも綺麗でした。新聞の読センターには、いろいろな機械がありました。	自分の役割でがんばったこと	+++++	聖徳体育館で友達と仲良くしっかり先生の話を聞いていてすごいなと思いました。私も友達のように、楽しいことでもふざけず、メリハリをつけることができる人になりたいと思います。
		どちらかと言えば楽しかった	<input type="checkbox"/>		前の自分より成長したこと	+++++	
		どちらかと言えば楽しかった	<input type="checkbox"/>		友達のおかげだったところ	+++++	
		楽しかった	<input type="checkbox"/>		友達と協力したこと	+++++	
				これからはがんばりたいこと	+++++		
5月22日 交通安全教室 (交通ルール講習会)		安全への意識が高まりましたか	チェック	チェックした理由	行事をふり返って	チェック	チェックした理由
		高まりました	<input type="checkbox"/>		自分の役割でがんばったこと	+++++	
		どちらかと言えば高まりました	<input type="checkbox"/>		前の自分より成長したこと	+++++	
		どちらかと言えば高まりました	<input type="checkbox"/>		友達のおかげだったところ	+++++	
	高まりました	<input type="checkbox"/>	友達と協力したこと		+++++		
				これからはがんばりたいこと	+++++		

学校行事 振り返りアンケート 遠足 5月13日 名前()

① 「楽しかったですか？」 あてはまるものに○をつけましょう。

楽しかった どちらかと言えば楽しかった どちらかと言えば楽しくなかった 楽しくなかった

② ①で○をつけた理由を書いてください。

みんなであそびたいおべんとうを食べたから

③ あてはまるものに○をつけましょう。ミニチュアはじりかたどくに

「ア」自分のやくわりでがんばったことが すごくある ある ない 楽しかった

「イ」前の自分より成長したことが すごくある ある ない

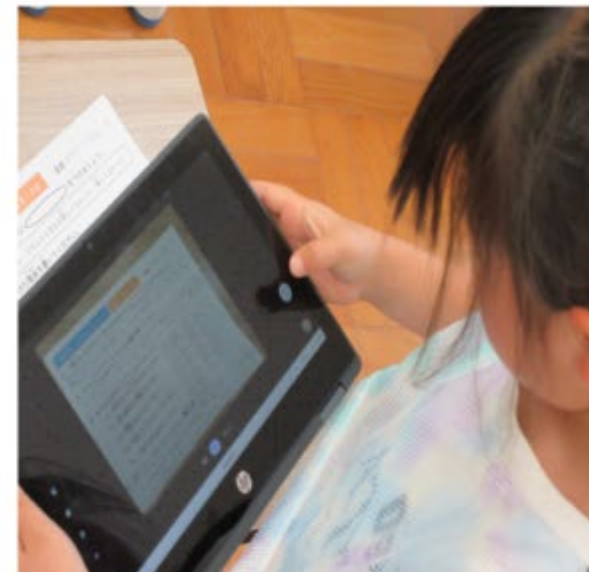
「ウ」友達のおかげだったところが すごくある ある ない

「エ」友達ときょうりょくしたことが すごくある ある ない

「オ」これからはがんばりたいことが すごくある ある ない

④ ③の「ア」～「オ」から1つえらんで理由を書いてください。

「オ」について がんばりがあつたから、楽しかったから、おべんとうを食べたから、友達と協力したから、



振り返りの視点を明確にし、入力できるようにしている。
過去の学校行事の振り返りも参照し、成長を実感できるようにしている。

低学年は紙に記入してから、写真に撮り、
各自のフォルダへ保存する。これまでの取組状況について必要に応じて参照する。

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑬

熊本市立榎木小学校

運動会の表現運動のイメージを動画で共有

学校行事

その他

- 運動会における表現運動については、**苦手意識をもつ子供も見られるなか、踊り方を撮影した動画を活用し**、視聴しながら動きを確認して練習。**再生速度を調整**することで、ゆっくりとした動きに合わせて練習するなど、一人一人のペースに応じた取組を可能としている。
- 踊っている様子を**自分や友達等が撮影し**、それを見ることで、**自分の動きを客観的に捉える**ことができるようになっている。その結果、**どこを直すとよいのかを具体的に理解し**、よりよい動きへとつながっている。



踊り方を撮影した動画を視聴しながら、動きを確認



タブレットを使って苦手なところを繰り返し視聴



事前に自分のペースで練習をすることで、安心して全体練習に参加

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑳

熊本市立榎木小学校

特別支援学級における
遠足の事前指導での安心感の醸成

学校行事

その他

- 特別支援学級の子供の中には、環境の変化や初めての活動に対する不安を強く感じる場合があり、遠足等の行き先について事前に理解を深め、安心して活動に臨めるようにするため、教師の実地踏査の際に、現地の様子が伝わるように写真や動画を撮影。
- 子供たちはこれらの映像を視聴しながら、建物や設備、道路の状況、周りの景色などを確認する。教師は、必要に応じて留意事項を伝えながら説明することで、具体的なイメージをもてるように工夫。



遠足の行き先について動画等を視聴し、現地の様子を確認



事前学習で様子を見たことで安心感が醸成

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑳

岡山県立岡山東商業高校

専門高校における実践的な
「デパート運営」の実現

学校行事

その他

- 東商デパート（全校）では、1～3年の各ホームルームがそれぞれ1店を運営。生徒が分担し、仕入れから販売、広告・店舗設計までを業者と折衝しながら進めるなど、商業の学びと往還しながら、店舗（ホームルーム活動）での合意形成、東商デパート（全校）での合意形成、生徒個人の意思決定を繰り返す学校行事として実施。
- 一人一台端末の導入で合理的・効果的な合意形成が図れるようになるとともに、より実社会の実践に近いデパート運営を可能としている。

令和7年度 第32回 東商デパート 販売商品一覧

1-1	株式会社 徳川酒造 (徳川酒造、イオンモール岡山店)	徳川酒造 徳川酒造 徳川酒造(イオンモール岡山店)	3-1	早稲草子酒造 酒造酒造 クラカアグリ株式会社	早稲草子酒造、酒造酒造 クラカアグリ株式会社
1-2	株式会社山崎ハイテクアーサー (コストセレクト)	コスト商品	3-2	株式会社天海堂 岡山本店	株式会社天海堂 岡山本店
1-3	株式会社東地スポーツ	トイレットペーパー トレーニング用品	3-3	アサヒ飲料株式会社 福寿堂 福寿堂本店	アサヒ飲料株式会社 福寿堂 福寿堂本店
1-4	株式会社岡山商産	フタコト、お茶 お茶、お茶	3-4	and green tea	and green tea and green tea
1-5	株式会社山崎製菓株式会社	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-5	株式会社サンコープレジャー	株式会社サンコープレジャー 株式会社サンコープレジャー
1-6	株式会社ニッポン製菓株式会社	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-6	株式会社ニートはしりち	株式会社ニートはしりち 株式会社ニートはしりち
1-7	株式会社はんこく製菓	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-7	デニッシュたい焼きの成りひ	デニッシュたい焼きの成りひ デニッシュたい焼きの成りひ
1-8	株式会社トンの岡山製菓	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-8	株式会社 川上食品	株式会社 川上食品 株式会社 川上食品
2-1	新庄村で暮らす	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-2	HONGTAR YELLOW	HONGTAR YELLOW HONGTAR YELLOW
2-2	株式会社 大岡 (日本一のおかし屋)	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-3	株式会社 カフェ岡山	株式会社 カフェ岡山 株式会社 カフェ岡山
2-3	株式会社チャエラ (ヘルメス手帳)	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-4	株式会社 早稲草子酒造 (徳川酒造にまつり酒造)	株式会社 早稲草子酒造 (徳川酒造にまつり酒造)
2-4	岡山ゴム株式会社	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-5	株式会社 藤野やうざ酒造	株式会社 藤野やうざ酒造 株式会社 藤野やうざ酒造
2-5	株式会社岡山中央製菓	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-6	わらび製菓門店 門前岡山店	わらび製菓 わらび製菓
2-6	広東製菓 山崎株式会社	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-7	株式会社デンソー岡山工場	株式会社デンソー岡山工場 株式会社デンソー岡山工場
2-7	SUZUKI (花屋イベント販売)	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子	3-8	株式会社 藤野やうざ酒造 (つばき酒造)	株式会社 藤野やうざ酒造 (つばき酒造)
2-8	有限会社 大塚製	お菓子、お菓子 お菓子、お菓子			



特別活動におけるAIの活用事例①

※ リーディングDXスクール 生成AIパイロット校の事例より

いわき市立内郷第一中学校

生徒会総会の事務作業をAIにより効率化

生徒会
活動

その他

生徒会総会での活用の様子

<これまで>

- ・生徒会総会時に記録係の生徒が議事録を紙媒体に記録する
- ・後日、議事録を整理し全校生徒に共有
- ▶ 生徒・教員の負担が重い



【議事録】

生成AI搭載の音声認識アプリを活用し、議事録をまとめた。

- ▶ 音声を再度聞き直して議事録を作成
- ▶ 聞き漏らしを補填
- ▶ 議事録の内容をわかりやすく整理

各委員長の手元には端末



端末を用いて議事録をとる



議事次第を見ながら議事進行



原稿や資料を確認



生成AI搭載の音声認識アプリを活用することにより、従来行われてきた手書きの記録及びその後の整理の時間を短縮することができた。効率的に学校行事を進めることができた。

特別活動におけるAIの活用事例②

久喜市立鷺宮東中学校

生徒会企画の練り上げや運営へのAIの活用

生徒会
活動

その他

生徒会本部役員の主體的な活動の支援として活用

いじめ防止強化月間にあわせた活動の企画を立案

生成AIを壁打ちとして
企画の練り上げをサポート

①生徒朝会での呼びかけ

生徒会長の呼びかけ原稿の校正と練り上げに活用

②いじめ防止ポスターの作成

AIデザインツールでポスターを作成し、校内に掲示

③いじめ防止動画の作成

動画の場面設定について壁打ち。提案をもとに自校にあわせた具体的な場面を設定し、動画を作成。

生徒の作成した動画



動画撮影のために、どのような場面が効果的か生成AIのアドバイスと、自分の学校の課題を照らし合わせ、本校の現状にあわせた具体的な場面やそのセリフを考え、撮影することができました。

例) SNS・うわさ など

生徒の感想

- ・ 検索よりも時短になる。
- ・ 質問が不十分だと期待した回答にならないのが難しい。
- ・ 自分の聞きたいときに質問ができる。
- ・ 参考にして自分の考えを出すのに効果的だと思う。

子供の地域社会等への参画に関する事例



子供の地域社会等への参画に関する事例

参画内容	活用事例	
学校運営協議会	事例① 子供の学校運営協議会への参画	小学校 児童会
	事例② 子供たちが主体となり、地域と協働して「憩いの場」を復活	小学校 児童会
	事例③ 「こどもCS委員会」を設置し、地域とともに学び、ともに育つ	小学校 児童会
	事例④ 子供たちの参画による協働的な学校生活の創造	小学校 児童会
	事例⑤ 全校児童生徒の願いを生かした「豊田ウォークラリー」	小・中 学校行事
	事例⑥ 生徒会とPTA等が協働した地域貢献活動	中学校 生徒会
	事例⑦ こどもと大人の学校会議	中学校 生徒会
学校評価	事例⑧ 子供の願いから始まる、地域と協働するクラブ活動	小学校 クラブ活動
	事例⑨ 評議員との協議/学校運営への意見表明	高校 学校行事 生徒会
	事例⑩ 学校行事検討委員会への生徒会の参画	高校 学校行事 生徒会
教育委員会等	事例⑪ 地域清掃グループClean Group Junior (CG・J) の取組	小・中 児童会 生徒会
	事例⑫ 子供の参画を通して「共に創るパートナー」の実現	小・中 児童会 生徒会
	事例⑬ 生徒会の公約実現を市全体で後押し	中学校 生徒会
	事例⑭ 地域高齢者向けかんたんスマホ相談会	高校 生徒会
その他 (子供が直接 地域社会と関わる等)	事例⑮ 地域と連携した防災イベントの実施	中学校 生徒会
	事例⑯ 「貢献」を合言葉に地域と協働したボランティア活動	中学校 生徒会 学校行事
	事例⑰ 高校生による地域雪かきボランティア	高校 生徒会
	事例⑱ ボランティア活動による社会・地域貢献	高校 生徒会
	事例⑲ 地域の防災訓練の見直し	高校 ホームルーム活動

子供の地域社会等への参画の事例①

児童会

さいたま市立浦和大里小学校

子供の学校運営協議会への参画

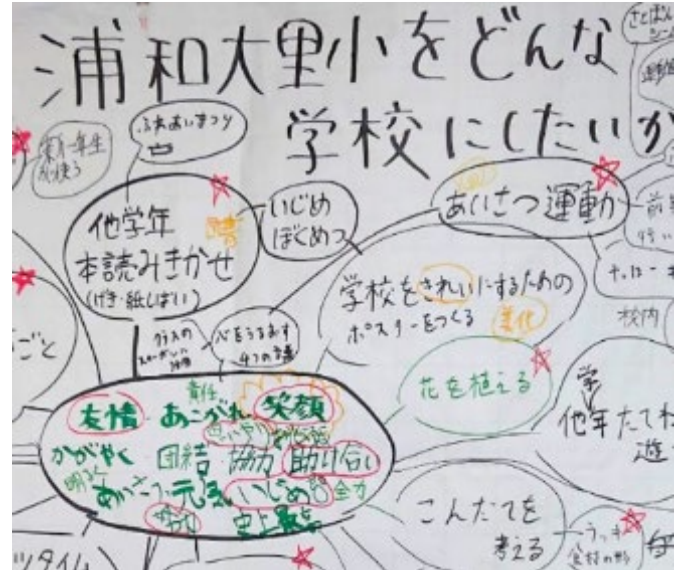
学校運営協議会

小学校

- 児童会の代表者が学校運営協議会（コミュニティ・スクール）に参加し、「笑顔がこぼれる学校にしたい」という思いから、学校全体で、各学級の日直が着用する「日直バッジ」を作り、他学年の子供たちと関わるきっかけづくりを行った取組など、児童会の活動を紹介。
- 協議会委員との話し合いにおいては、子供たちから、学校だけでなく地域全体が笑顔になるように「地域のあいさつ運動」をしてみたいと提案。協議会委員からも「子供たちの声の実現できるようにしたい」、「あいさつ運動を通して地域全体が元気になるように取り組んでみたい」との意見が表明され、児童会として子供たちができること、地域としてできることをそれぞれ検討し、協議会として方向性を考えていくことを確認。



児童会の代表が学校運営協議会に参加



代表委員会で話し合った「取り組みたいこと」の図を提示しながら発表する



子供たちと協議会の委員で「地域のあいさつ運動」をするよさなどについて話し合う

子供の地域社会等への参画の事例②

三田市立三田小学校

子供たちが主体となり、 地域と協働して「憩いの場」を復活

児童会

学校運営協議会

小学校

- 学校の周辺には、かつて「散歩道」が整備され、子供たちや地域の方々の憩いの場となっていた。しかし、約10年前から、安全管理上の理由で閉鎖され、荒れた状態が続いていた。こうした状況を受け、「散歩道」を学校や地域の魅力として復活し、自慢できる場所にしたいという思いが子供たちがもつようになった。
- そこで、子供たちが実行委員会を立ち上げ、校長や教員と相談をしながら活動を開始。その際、校長からは、全校の子供たちの考えを把握することや、自分たちだけでは難しいことについて、協力をお願いする相手を考えることなどについて提案があった。
- 実行委員会では、全校に向けたメッセージ動画の作成やアンケートの実施、学校運営協議会での説明、児童会との連携など、復活に向けた取組を進めることを検討。学校運営協議会では理解と協力が得られた一方、安全に遊ぶためのルールづくりなどについては、子供たちで考えてほしいとの提案があった。
- 代表委員会において「散歩道」の復活に向けた取組を議題とし、学校全体の取組としてスタートした。



「散歩道」を調査する実行委員



休み時間に集まって、話し合いを行う実行委員



復活に向けて校長へ相談



学校運営協議会に出席し、思いを伝えるとともに、復活に向けた進め方を協議

子供の地域社会等への参画の事例③

広島県府中市立国府小学校

「こどもCS委員会」を設置し、
地域とともに学び、ともに育つ

児童会

学校運営協議会

小学校

- 学校運営協議会では、基本理念を「地域を愛し、たくましく生き抜く子供の育成」とし、**学校・地域・家庭がつながりをもてる社会の実現**を目指して活動。社会に開かれた教育の実現に向けて、**育成したい資質・能力を地域とも共有**し、各教科等においても地域人材を積極的に活用して子供たちの育成を図っている。
- 地域とともに学び、ともに育つことを目指し、これまでの「参加」にとどまる形から、**参画・協働へと発展させるため、「こどもCS委員会」を設置**し、児童会活動の一つとして毎月1回開催し、**地域や学校の様々な課題について、地域の方とともに考え、協議し、解決に向けて取り組んでいる**。内容によりすぐに解決できることもあれば、時間をかけて練っていくこともある。
- 地域と共催する「国府演JOY祭」に向けては、看板やポスターの作成、クイズ大会などの企画、テーマソングやキャラクターの制作など、様々な提案を行い、**地域の方と交流できる内容の充実を積極的に考えている**。



月1回のこどもCS委員会では、地域の方とともに、地域の課題の解決に向け協議



「国府演JOY祭」に向けて、昨年度の取組を振り返り、より充実させるための工夫を協議



「こどもCS委員会だより」も発行し、学校だけでなく地域にも取組の様子を広報することで、地域とともに育つ学校づくりを実践

子供の地域社会等への参画の事例④

児童会

学校運営協議会

小学校

下松市立下松小学校

子供たちの参画による
協働的な学校生活の創造

- 代表委員会に所属する児童が学校運営協議会に学期に1回参画し、地域やPTA等の多様な他者と協働しながら、よりよい学校生活づくりに取り組んでいる。
- その成果や課題等を検討する際には、学校評価の結果を活用している。校長は全校朝会にて、子供たちへグラフ等を用いて結果を説明するとともに、今後の学校生活の向上に向けて自分たちにできることを考えるよう促している。
- これらを踏まえ、学校運営協議会では、学校教育目標の柱である「知」「徳」「体」に基づき、子供、教職員、PTA、地域の方がグループに分かれて話し合い、企画及び運営を行っている。

「知」グループ：放送・図書・広報掲示委員会の子供たちが所属。本に興味をもてるように、地域の方や保護者と協働して取り組んだ。

「徳」グループ：運営・生活安全・園芸委員会の子供たちが所属。児童集会に地域の幼児教育施設の子供や地域の方の参加を促す取組を行う。

「体」グループ：健康・運動・給食・環境美化委員会の子供たちが所属。PTAや地域の方と健康について学ぶ機会をつくる。

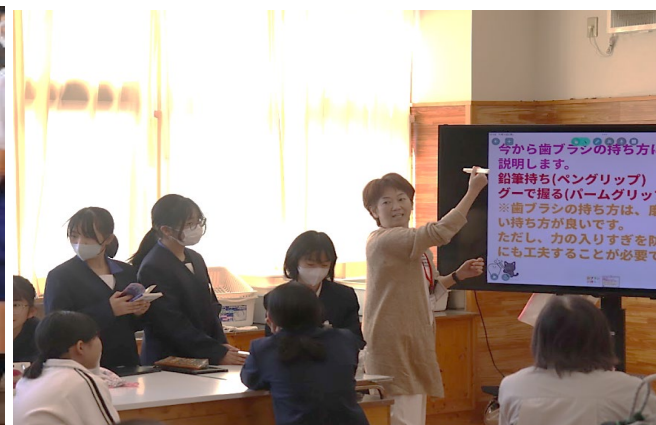
- 子供たちは自身に割り振られた担当事項に十分に関心を持ったうえで学校運営協議会に参画することにより、自分たちの行動が地域を変えることができ、社会の一員であることを自覚して新たな課題に向き合う姿勢を持つことができるようになった。



3グループに分かれ、よりよい学校生活をつくるため協議。



七タイムには地域の方と共に短冊をかざり、PTAと一緒に児童集会を実施。



健康委員会が主体となりイベントを企画し、保護者、地域の方等と交流。

子供の地域社会等への参画の事例⑤

全校児童生徒の願いを生かした 「豊田ウォークラリー」

小山市立豊田小・中学校

学校行事

学校運営協議会

小・中

- 隣接する豊田小学校と豊田中学校は、併設型小中一貫校としての取組の一環として、**学校運営協議会において、全校児童生徒と委員による熟議を行い**、地域全体をよりよくするための意見交流を実施。
- 児童生徒からは、**自分たちの住む地域をよりよくなりたいという思いやユニークなアイデア**が出され、学校運営協議会の委員からは、大人の視点での助言が示された。
- これらの協議から、小中学生が縦割り班を編成し、豊田地区を巡る「**豊田ウォークラリー**」の開催が決定。**学校運営協議会との共催とすることで、地域の歴史等に詳しい地域の方々との協力を得ることができた。**
- チェックポイントにおける**クイズやゲームは中学3年生が考案し、名所の紹介や交通安全に関する指導は地域の方が担う**など、それぞれの役割を生かした運営を行い、**小中学校間の交流や地域の方との関わりが深まるとともに、地域のよさを再発見**することにつながった。



各教室等をオンラインでつなぎ、地域がよりよくなるための意見交換を実施



チェックポイントでは、ゲームやクイズを通して、小・中学生の交流も充実



活動中の交通安全の指導にも地域の方が積極的に協力

子供の地域社会等への参画の事例⑥

白山市立鶴来中学校

生徒会とPTA等が協働した地域貢献活動

生徒会

学校運営協議会

中学校

- **生徒会とPTAが協働したボランティア活動として地域の資源回収を実施。**複数の生徒とPTAや地域の地区委員等が町会ごとにチームを作って活動。
- 事前の活動として、チームごとに家庭や事業所等にお知らせを配布。生徒会による自発的、自治的な活動として、地域に広く協力を呼びかける。その結果、地域の家庭や事業所から古紙や段ボール、空き瓶等の提供を受けるなど、コミュニティ・スクールとして、学校と地域が連携した取組に発展。
- 資源回収当日、**生徒はPTAと地域の地区委員等と協働しながら、新聞紙や古紙、段ボール等を回収。**校区外から通学している生徒は、PTAと協力して学校で回収。
- **PTAや地域の方と接する機会や協働する場を持つことで、生徒の地域への愛着が深まるとともに、地域社会への参画の具体的なイメージをもつことにつながった。**



段ボールは地域の家庭や事業所が提供、地域を巻き込んだ取組に発展



各町会の代表生徒がリーダーシップを発揮し、PTAや地域の地区委員等と協働



たくさんの古新聞や古紙、段ボールを学校で回収し、生徒会とPTAが協力してまとめる

子供の地域社会等への参画の事例⑦

学校行事

みよし市立三好中学校

子どもと大人の学校会議

学校運営協議会

中学校

- 子供、保護者、地域住民、教師など、学校に思いをもつ多様な人々が願いを共有し、よりよい学校づくりを考える場として、**平成26年度より「子どもと大人の学校会議」を開催。**
- **翌年度からは生徒会役員が運営・進行。小学生と小学校教師も参加し、小中あいさつ運動会議が発足。**小中あいさつマスコットキャラクターを決定。**このとき参加した小学生が、その後、中学生、高校生として再び参加。**
- 地域の民生児童委員等が継続的に参加するとともに、**卒業生の参加も年々広がった。**令和4年度には、児童生徒や**教師、保護者、地域関係者**（※）、**卒業生（高校生～社会人）、大学教員**等が、それぞれの立場から議題について意見を交わした。そして、この関係者が学校運営協議会の土台を作り、子どもが大人と同じ目線でより良い学校を目指して話し合うコミュニティ・スクールづくりにつながっている。
- 参加者の中には、地域の方々の思いに触れた経験が地域に関わる職業を志す契機となり、**実際のキャリア選択に大きな影響を与えた生徒もいた。**

※地域関係者：PTA役員、学校運営協議会委員、人権擁護委員、保護司、民生児童委員、青少年補導員、市役所職員等



会議を運営・進行する生徒会役員



多様な立場から学校への願いを共有する



卒業後も学校・地域づくりに参画

子供の地域社会等への参画の事例⑧

唐津市立相知小学校

子供の願いから始まる、
地域と協働するクラブ活動

クラブ活動

学校評価

小学校

- 「地域と共に歩む学校へ・子どもは地域の宝」をテーマに地域連携協働活動を推進。例えば、クラブ活動の計画を立てる話し合いにおいて、子供たちから「地域の方にクラブ活動で教えてもらいたい」という声が挙がった。
- そこで、子供たちと担当の教諭が校長に相談し、「地域の中で得意な方に教えてもらったり、一緒に活動したりすることで、もっと自分の好きなことをよりよくできるようにしたい」という思いを伝えた。地域連携協働活動の蓄積により、地域で活躍されている方々を把握していたことから、協力を依頼することとした。
- 子供たちは、クラブ活動で一緒に活動してほしい旨を手紙に書き、直接届ける取組を行った。自分たちでお願いをすることで、地域との関係が一層深まるとともに、活動への責任感の高まりにもつながっている。



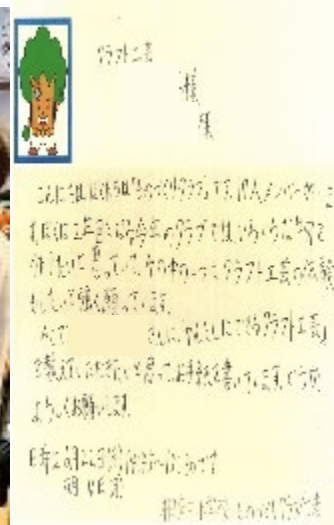
クラブ活動の計画を立てる話し合いにおいて「地域の方に教えてもらいたい」という声が挙がる



子供たちと担当教諭が校長に相談する



地域の方に依頼するための手紙を直接渡しに行く



地域の方に感謝の手紙を作成

子供の地域社会等への参画の事例⑨

学校行事
生徒会

岡山県立岡山東商業高等学校

評議員との協議／学校運営への意見表明

学校評価

高校

- **学校評価を学校運営の改善につなげる取組の一環として、生徒会役員が学校評議員会に参加し、学校運営や学校行事について意見交換を実施。**生徒会では、学校生活に生徒の意見が反映される機会が増える一方で、**学校行事の中には、生徒の視点から十分に検討されていないものもあるのではないか**という課題意識をもっていた。
- そこで、**生徒会役員は学校評議員会において、生徒の立場から学校運営や学校行事に関する意見を表明**するとともに、**学校評議員から地域や保護者の視点による評価や期待を聞き取った**。その内容を踏まえ、学校運営や学校行事への生徒会の関わり方について検討し、地域住民も楽しみにしている学校最大の行事である「東商デパート」をはじめ、具体的な改善案を提案した。その結果、**生徒会の提案が年度内の行事改善に反映された**。
- こうした取組を通して、生徒は**学校評価を単に結果として受け止めるのではなく、学校運営や学校行事を改善するための仕組みとして捉え、自らその過程に参画**。学校評議員との対話により、学校に対する地域の期待や評価を理解し、それらを学校づくりに生かす経験を重ねている。**生徒が学校関係者評価のプロセスに主体的に関わることで、学校評価を教職員に留まらず、生徒・教職員・地域が協働して学校改善を進める機会**としている。



生徒会による学校評議員との協議



生徒会による学校評議員への提案



生徒会による校長・教頭への提案

子供の地域社会等への参画の事例⑩

学校行事
生徒会

高知県立嶺北高等学校

学校行事検討委員会への生徒会の参画

学校評価

高校

- 当該校では、**学校評価において生徒の意見を聴取し、学校運営に反映**する取組を進めてきており、生徒会役員選挙の在り方の見直し等を実現してきた。こうした中、**生徒会役員から「学校行事が特定の時期に集中**しており、生徒の負担や活動の質の面から改善すべき」との意見が出された。地域連携や部活動の大会に関わる取組など、**多様な活動を展開する高校生だからこそ、年間行事計画を見直したいという提案(生徒総会での決議)**であった。
- この提案を受け、教職員からも「学校行事は生徒が主体となって取り組むものでありながら、慣例的に踏襲している面がある」「校務分掌や教科ごとに企画・運営される行事も多く、学校全体の視点から見直す機会が必要」といった意見が出された。そこで、**生徒会役員が学校行事検討委員会に参画し、生徒と教職員が対話しながら学校行事の在り方を検討**する体制を整えた。
- こうした取組を通して、**生徒は学校生活に関わる課題を自ら見だし、多様な立場の意見を踏まえながら改善策を考える経験**を重ねている。また、**学校評価の場に参画し、自らの意見を学校づくりに反映させる過程**を通じて、**よりよい学校生活の実現に向けて主体的に役割や責任を果たそうとする態度を育んでいる**。



学校行事検討委員会への生徒会の参画

子供の地域社会等への参画の事例⑪

児童会・生徒会

兵庫県芦屋市 地域清掃グループClean Group Junior (CG・J) の取組

教育委員会等

小・中

- 学校外で育まれた関心・行動について、特別活動が学校と社会をつなぐ接続装置として機能することで、行政を巻き込み取組を地域社会へと広げていった。
- 芦屋市の小学校に通う5年生の児童2名が、近くの砂浜に貝殻よりも多くのごみが落ちている光景を見て、「自分たちでもできることをやってみよう」と思い立ち、仲間と共にごみ拾いを開始。その問題意識に基づく行動が、地域、家庭、学校へと広がりを見せる。
- 2名は中学校入学後に生徒会執行部に所属。取組を美化委員会や学年の活動に位置付けることで、生徒会活動の機能を生かして活動の幅を広げた。この取り組みは卒業後も「地域清掃グループCG・J」として活動を継続。現在は、小学生から大学生までが有志で集い、教育委員会を含む市行政全体が支えるなど、組織的に活動を展開している。



美化委員会での話し合い



学年単位で取り組む地域清掃活動



地域の一員として地域をよりよくなる担い手へ

子供の地域社会等への参画の事例⑫

横浜市教育委員会

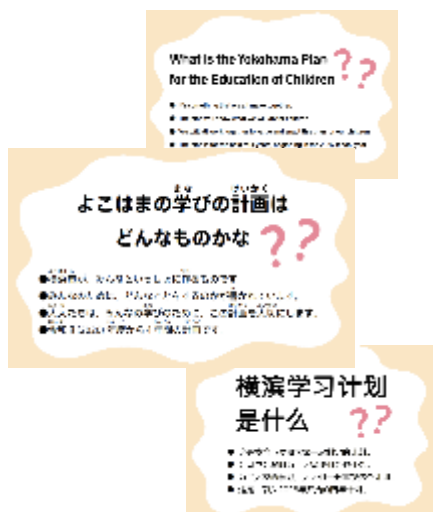
子供の参画を通して
「共に創るパートナー」の実現

児童会・生徒会

教育委員会等

小・中

- 第5期横浜市教育振興基本計画の策定に当たり、**子供や教職員、地域の方などとの対話**を重ね、計画づくりの過程においてそのコンセプトの共有を図りながら、共に創る取組を進めた。
- 子供たちから意見を聴く際には、**事前に分かりやすく伝えるために発達の段階に応じた子供向けリーフレットを作成**したり、**伝わりやすい問いを工夫**したり、**多言語版や点字版などを準備**するなど、多様な子供たちの意見を把握できるようにした。
- また、①**教育委員会が学校を訪問**する、②**一人一台端末を活用して意見を募集**する、③**意見を集約するとともに子供に「お返事」を届ける**、などの方法を通して子供たちと対話を重ねた。これにより、子供たちが**計画づくりに参画している実感**をもてるようにした。
- こうした取組を、学校や教職員の意識の転換を促し、**子供が学校の中心**として学校や学びの在り方に関わるきっかけとし、「共に創るパートナー」として、国際園芸博覧会の取組や学校統廃合の検討などにおいても子供の意見を聴くなど、**子供が主体的に参画する実践**を積み重ねている。



趣旨を子供たちへ確実に伝えるため、多様な言語に対応したリーフレット等を作成し、周知



学級での話し合いや児童会・生徒会活動を活用して、教育委員会と対話



子ども実行委員が教員、連携企業、起業家等とこれからの学びを協議



国際的なイベントに向けて、行政側が子供たちの意見やアイデアを反映

写真出典：第5期横浜市教育振興基本計画

子供の地域社会等への参画の事例⑬

生徒会

彦根市教育委員会

生徒会の公約実現を市全体で後押し

教育委員会等

中学校

- 中学校の生徒会が学校や地域の課題について話し合い、よりよい学校づくりに向けて協働する取組を更に発展させるため、令和7年度から、**生徒会が掲げる目標や企画の実現を支援する仕組みを構築**。各学校の生徒会では、自ら取り組みたい活動や実現したい目標を設定し、その具体化に向けた検討を進めている。
- **市は、ふるさと納税による寄付金を活用**。こうした仕組みを通じて、**生徒の主体的な提案や取組を市全体で支える環境**が生まれている。
- **行政による支援の下で取組を実現**することで、**生徒は自らの意見や行動が学校や地域のよりよい未来につながることを実感**するなど、**社会参画の意識**を育てている。



生徒会本部の話し合いの様子



クリスマス・ニューイヤーカードを配り、地域の独居老人とのつながりを深める活動



生徒と地域学校協働本部とで作った「おにぎり」を食べながら交流し、関係を深める活動



製作した「かまどベンチ」を活用し、地域の方・保護者と防災食試食会を開催したときの様子

子供の地域社会等への参画の事例⑭

生徒会

山口県立下関北高等学校

地域高齢者向けかんたんスマホ相談会

教育委員会等

高校

- 生徒会活動の一環として、**地域住民との交流や地域課題の解決に取り組む活動を推進**するため、県の事業である高齢者を対象としたスマホ相談会に生徒会役員及び有志の生徒が参加。
- 相談会では、企業による事前講習で学んだ内容を基に、生徒が高齢者一人一人に寄り添いながら、スマートフォンの操作方法や活用方法について丁寧に説明。参加した高齢者から寄せられたアプリの操作や検索方法などに関する様々な相談に対し、**生徒は実際に端末を操作してもらいながら分かりやすく支援**を行った。
- こうした活動を通して、**生徒は相手の立場に立って考え、分かりやすく伝える力やコミュニケーション能力を育てている**。また、行政、警察など**多様な主体と連携して地域課題の解決に取り組む経験**を通じて、**社会の一員として、地域とのつながりを深め、地域に開かれ信頼される学校づくりに参画**している。



下関北高生による高齢者向けのかんたんスマホ相談会の様子

子供の地域社会等への参画の事例⑮

生徒会

江戸川区立葛西中学校

地域と連携した防災イベントの実施

その他

中学校

- **生徒会活動として、**地域の方と併設小学校の児童を対象に、学校が避難所になったときのために、防災物資の保管場所や使用方法について、**中学生が小学生に説明する防災体験会を夏季休業日中に実施。説明を担当する中学生は、学校と地域が後援し、生徒会本部が募集。**集まった中学生には、学校と地域が事前にレクチャーをして活動。
- また、秋に開催される区共催の地域防災イベントに、中学校生徒会がボランティアとして参加。**参加者は、防災体験会と同様に、生徒会が主体的に会員に呼びかけをして集める。**様々なアトラクションやブースに分かれ、小学生や地域の住人と交流する活動に取り組む。単発のイベントにならないよう工夫しながら、**防災体験会に参加した小学生と再び防災について考えることを通じ、中学生としての役割を考え、主体的に参画。**



小学生に防災物資について説明する中学生



地域の消防署が開催する消火訓練に参加し、小学生のサポートも行う



防災イベントにおける小学生との交流

子供の地域社会等への参画の事例⑬

生徒会

学校行事

久慈市立久慈中学校

「貢献」を合言葉に地域と協働したボランティア活動

その他

中学校

- 中学生として「久慈市のためにできること」を一人一人が深く考える機会を得るため、何が出来るかを検討した結果、地域の伝統行事である久慈秋まつりに生徒会が参加。生徒会活動として、自発的・自治的に取り組んだ。
- 1学期には、久慈秋まつりに関する講演会を聞き、まずは学級ごとに「久慈秋まつりのために私たちができること」について考え、6つのボランティア活動に取り組むことで「貢献」することを決定。
- 「貢献」という具体的な目標を共有したことで、当日だけでなく、山車作りや演奏練習、紅白幕の飾りつけや清掃活動など、事前の取組にも積極的に協力する姿が見られた。清掃活動では、訪れる人が気持ちよく祭りを楽しめるようにと、ごみ拾いや除草に汗を流した。
- 最終的にはのべ200名を超える生徒がボランティア活動に主体的に関わり、**生徒会活動での自発的、自治的な活動を通して、地域に参画することの意義を多くの生徒が実感した。**



紅白幕の飾りつけの様子



山車づくりの様子



観光案内ボランティアの様子

子供の地域社会等への参画の事例⑰

生徒会

山形市立山形商業高等学校

高校生による地域雪かきボランティア

その他

高校

- 学校が所在する地域は高齢化が進んでいるが、毎年、積雪が多く、住民だけの除雪には限界があることを通学する生徒たちが自分事として日頃から課題として捉えていた。そこで、**生徒会活動として、行政や地域住民が行う雪かきの協力が出来ないか検討**。実際にどのように集まり、動くか等を**事前に関係者と調整するなどしたうえで、必要に応じて実行に移すことを合意形成**。
- ある日の降雪後、それまでの**合意形成を踏まえ有志が迅速に集まり**、道幅を広げたり、除雪車が寄せた雪を除雪するなどした。**日頃の生徒会活動を通して、行政や地域住民も含めた共通認識を形成**していことにより、あらかじめ想定していない地域の事柄にも、柔軟かつ機動的に対応することができた。

活動後の生徒の声

- 「今後も除雪を始め地域のために力になることがあれば率先して協力していきたいと生徒会で考えています。」（山形商業高生徒）



生徒会活動で雪かきボランティアを行う山形商業高生

子供の地域社会等への参画の事例⑱

生徒会

広島県立可部高等学校

ボランティア活動による社会・地域貢献

その他

高校

- 地域社会とのつながりを深めるとともに、生徒の主体的な社会参画を促すことを目的として、事前に希望生徒を募り、ボランティア活動を実施。その際、社会・地域貢献の意義や異年齢との交流の大切さについて事前指導を行い、生徒一人一人が活動の目的を理解した上で参加することを共通認識としている。
- 実際の活動として、学校近くの川で地域住民とごみ拾いを行う「クリーン太田川清掃ボランティア」、地域協議会と協力して祭りの準備から当日の運営補助までを担う「明神社夏の祭ボランティア」、安佐北警察署等と連携し、駅周辺で広報活動等を行う「自転車盗難防止キャンペーンボランティア」など、多様な活動を展開している。
- こうした活動を通して、生徒は地域住民や関係機関の方々と協働しながら地域社会の一員としての役割を果たすとともに、世代や立場の異なる人々との交流を通じてコミュニケーション能力や協働する力を育み、地域とのつながりを深め、地域に愛され信頼される学校づくりにつなげている。



① クリーン太田川清掃ボランティア
可部高校近くを流れる川の清掃ボランティア。手袋等を持参し、地域住民の方々とごみ拾いを行った。



② 明神社夏の祭ボランティア
高校近くの歴史ある神社で行われる祭りの準備から、当日の手伝いまで幅広く活動。地域の協議会の方々と協力して実施した。



③ 自転車盗難防止キャンペーンボランティア
可部駅で地域の方々と安佐北警察と連携して広報活動及びチラシ配布を行った。

子供の地域社会等への参画の事例⑬

ホームルーム活動

その他

高校

岡山県立玉島商業高等学校

地域の防災訓練の見直し

- 学校では、防災教育の充実を図るため、毎年実施している避難訓練について、生徒自身がその在り方を検証し改善を提案する取組を実施。**従来の避難訓練が同様の内容で継続されていたことから、訓練後のホームルーム活動において、生徒が訓練を振り返り、課題や改善点について話し合う機会を設けた。**
- 話し合いでは、実際の災害発生時を想定しながら、「**園児には遠方の高台への避難よりも垂直避難が適しているのではないか**」といった避難方法に関する提案や、「**園児自身が防災について学ぶ機会を設けることで意識や行動の変容につながるのではないか**」といった意見が出された。
- こうした取組を通して、**生徒は学校生活に関わる課題を自ら見だし、多様な立場を踏まえながらよりよい方策を考えることで、学校生活の充実や改善に主体的に参画しようとする態度を育てている。**教職員にとっても、**重視する視点を共有しながら継続的な改善を進める契機となっており、学校行事の充実につながっている。**

1年目：3km離れた高台に避難



幼児との避難で歩道橋を使い、高台に向かうことの困難さを確認

2年目：3階以上への垂直避難に見直し



3年目：園児との防災学習（学校行事）を新設



ホームルーム活動で振り返り、次年度行事に向け意見表明

